

大阪府立大学看護学部年報

2010年度



2011年
第6卷

はじめに

看護学部は、質の高い看護職の育成という、現在医療界の喫緊の課題を果たすべく地域保健学域・看護学類に移行するため、新教育課程の立案・教員組織の検討を行いました。

平成 22 年度当初に看護学部・看護学研究科の課題として取り上げたものは以下の通りです。

(学部)

- ①保健師助産師看護師学校等指定規則改正にともなう保健師教育の検討と新カリキュラム作成
- ②入試広報活動推進
- ③府立病院機構との連携推進
- ④ピア授業参観実施

(研究科)

- ①博士後期課程、学位論文予備審査の検討
- ②「がんプロフェッショナル育成プロジェクト」(平成 19 年度～23 年度)の推進
- ③国際交流(タイ マヒドン大学 Exchange Program)の評価・推進
- ④高度実践を強化した CNS(専門看護師)への移行準備

これらの課題は、各委員会・ワーキンググループ等の活動により達成できたもの、また時期的に実現が難しかったもの等、達成度は様々です。

大学全体の組織が大きく変化する中で「府大看護学部」として教育・研究を通して社会に貢献し続けるためには、自己点検・評価に基づき PDCA サイクルを丁寧に回し、さらに質の高い教育・研究を提供できる様に改善していくことが求められております。

年報作成にあたっては看護学部の歩みをふり返り、データに基づき客観的にまとめる努力をしたつもりです。労の多い編集作業を担った看護学部部局評価・企画実施委員会委員等担当者に心から感謝申し上げます。

平成 23 年 3 月 31 日

大阪府立大学 看護学部

看護学部長・研究科長 高見沢 恵美子

目 次

はじめに

第1章	学部及び研究科の目的	1
第2章	学部・研究科の組織	3
第3章	学部・研究科の運営	6
第4章	学生の受け入れ	28
第5章	教育内容及び方法	33
第6章	学生支援	41
第7章	教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	44
第8章	研究活動	48
第9章	社会貢献と国際交流	51
資料	大阪府立大学看護学部教員業績一覧	55

編集後記

第1章 学部及び研究科の目的

1. 看護学部

看護学部の教育目的は、「生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成する。」であり、教育目標として以下の5つを掲げている。①人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身につけ、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性を養う。②看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせ、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を養う。③保健・医療・福祉・教育・地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力を養う。④変化する社会の中で看護の役割を展望し、発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を養う。⑤看護学への関心を深め、総合的な視野と看護研究の基礎能力を養う。

以上の目的は、大阪府立大学看護学部規程に「教育目的」として定められている（規程第54号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000931.html）。さらに教育目標は、履修要項およびホームページと看護学部案内に示し、学内外に広く周知されている。

特に看護学部の新入生を対象としたガイダンスにおいては、教務委員長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や学部案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。さらに新たに就職した教員には、看護学部長からのオリエンテーションの際に、本学部の教育目的、教育目標について説明を受ける機会が設けられている。また、受験希望者には学部案内を送付すると共に、オープンキャンパスや入試ガイダンスの参加者に説明を行い、広く社会に公表されている。

2. 看護学研究科

看護学研究科の教育理念は、「生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対してクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を志向した創造的・実践的な対応ができる専門的知識と技術をもった人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与する。」である。博士前期課程では、「人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な看護実践能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。②専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。③高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。④看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。⑤看護教育並びに看護実践の向上のために相談・教育・調整機能を高める。⑥専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。⑦看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する。」ことを目標にしている。博士後期課程では、「豊かな学識を有し、看護学分野において学術・研究を推進し、その深奥を極め、自立して研究活動を行うことのできる能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発する。②理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。③優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。④教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮する。⑤都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画する。⑥学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献する。」ことを目標にしている。

看護学研究科の目的は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程に示されている（規程第 61 号第 2 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001001.html）。さらに、「教育理念」および「博士前期課程教育目的・教育目標」、「博士後期課程教育目的・教育目標」は履修要項およびホームページと看護学研究科案内など学内外に広く周知されている。

特に研究科の新入生を対象としたガイダンスにおいては、看護学研究科長より教育目的、教育目標について説明を行うと共に、履修要項や研究科案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。

また、受験希望者には研究科案内を送付すると共に、受験前の指導教授との面談において説明を行うなど、看護学研究科の目的は、広く社会に公表されている。

第2章 学部・研究科の組織

1. 領域・分野と教員組織

1) 看護学部の教員組織

看護学部の教育目的に基づき、学士課程は学則に則って遂行され（規程第47号第1～42条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000031.html）、教員は大学設置基準第12～13条に基づき確保している。平成22年10月1日現在、専任教員数61名（教授17名、准教授15名、講師7名、助教22名）で教育課程を遂行している。教員数、教員配置については、ホームページ上で公表している。

教員組織は看護学部の教育目的に則り、教育課程として共通教育科目（教養科目・基盤科目）、専門支持科目、専門科目という3区分からなる。教員組織は、健康科学、人・環境支援看護学、家族支援看護学、生活支援看護学、療養支援看護学の5領域となっている。健康科学領域は共通教育科目（教養科目・基盤科目）、専門支持科目の一部を担当し、他の4領域は専門科目に対応するよう編成されている。これに基づき、各領域に教授、准教授、講師及び助教を配置している。教員間の組織的な連携体制は、各領域に主任教授がおかれ、領域内および領域間の調整が行われる。教育に係わる責任は、授業科目毎に担当者が教務委員会、教授会を経て毎年度決定され、シラバスに明示されている。

上記のように教員組織は5領域で構成され、教育研究を推進している。各領域の教育課程上の担当分野は次の通りである。「健康科学領域」では、教養教育と専門支持教育を担当している。「人・環境支援看護学領域」では、看護・看護学とは何かについて看護の対象となる「人」、その人をめぐる「環境」、看護の目的である「健康」から理解するとともに、基礎的な看護技術を習得し、統合された存在である人に対して、看護独自の機能を発揮するための基本となる知識と技術を習得する。「家族支援看護学領域」では、親子、家族関係、家族のライフスタイルおよび家族発達に応じた、家族の健康の維持・増進・疾病予防に向けた支援と健康問題への援助に必要な基本的知識と技術を学ぶ。「療養支援看護学領域」では、健康上の問題を有する成人期の人々へのケアについて、看護理論を基盤に、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目指した健康回復、健康維持あるいは安らかな死への援助を行う知識と技術を習得する。「生活支援看護学領域」では、地域で生活する高齢者や精神に障がいをもつ人々など、すべての年齢層を対象に健康の維持増進から在宅療養の支援まで、看護に必要な基本的知識と技術を学ぶ。

看護学部の教員は、専門性に基づき各領域に配置されて学部の教育にあたっており、各々が研究から培った能力を発揮するように構成されている。したがって、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

なお、平成17年4月に公立大学法人大阪府立大学として統合されたことを契機に「豊かな人間性を形成するため、総合大学としての教養教育を生かすこと」を基本的な考え方として、教養教育が組み立てられた。教養教育は、語学、情報教育、健康・スポーツ科学演習からなる基盤科目と教養科目から構成されている。教養科目は、羽曳野キャンパス開講科目に加え、週に1回中百舌鳥キャンパスにおいて開講されている61科目の中から選択することができる。学生は、羽曳野キャンパスおよび中百舌鳥キャンパスにおいて、多くの科目から教養科目・基盤科目を選択することができるようになった。なお、中百舌鳥キャンパスとの交通にはキャンパス間のバスを授業開始時間にあわせて運行している。

2) 看護学研究科の教員組織

看護学研究科においては、大学院設置基準第9条および大阪府立大学学位規程（規程第63号第8条

http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001501.html)に基づき、博士前期課程は39名、博士後期課程は32名の研究指導教員をそれぞれ確保している。なお大学院担当教員は、大学院看護学研究科2010年度学生必携で公表している。

看護学研究科では、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を創造的・実践的に発展させ、国際社会及び地域社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる看護分野の高度な実践者、管理者、研究者、教育者を育成するという大学院設置の趣旨・目的に基づいて、幅広い看護の領域をカバーできるように専攻を構成している。教育課程は基盤教育と専門教育で構成されている。

博士前期課程では、「人・環境支援看護学領域」は看護技術学・看護情報学・看護管理学・看護教育学の4分野、「家族支援看護学領域」は母性看護学・小児看護学・家族看護学の3分野、「生活支援看護学領域」は地域看護学・在宅看護学・老年看護学・精神看護学の4分野、「療養支援看護学領域」は急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の4分野の合計15分野から構成されている。上記の15分野にはそれぞれ修士論文コースがあり、そのうち11分野は専門看護師コースをもっている。

博士後期課程は、「生活支援看護学領域」と「療養支援看護学領域」の2領域で構成している。「生活支援看護学領域」は看護技術・情報学分野、看護管理・教育学分野、地域・精神看護学分野、在宅・老年看護学分野、母子健康看護学分野、家族健康看護学分野の6分野で構成している。また、「療養支援看護学領域」は急性療養看護学分野、慢性療養看護学分野、がん療養看護学分野、感染療養看護学分野の4分野で構成している。

3) 教員の採用

大学の設置目的及び教育理念に基づき、教員の任期制、公募制及び外国人の兼任教員の確保が導入されており、教員組織の活動をより活性化するために多様で透明性を確保した教員採用の措置をとっている。

看護学部教員の性別構成、年齢構成(平均年齢)は、資料2-1-3に示すとおりである。看護学部では、外国人教員を兼任教員(外国語)として確保し、採用している。教員の採用に関しては任期制及び公募制を導入している。本学教員の任期に関する規程に基づき、任期制は助教の採用に適用し、任期は3年としている(規程第14号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000411.html)。公募制は、本学教員人事規程(規程第15号第3条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000381.html)に基づき、全教員の採用に適用し、公募方法は資格、経験年数等の条件を明示し、本学ホームページ、研究者・人材データベースJRECINを活用している。

資料2-1-3 平成22年度看護学部 性別・年齢構成

平成22年10月1日現在

構成		講座	健康科学	人・環境支援	家族支援	生活支援	療養支援	合計
教員数			2	12	12	18	17	61
性別(名)	女性		0	11	11	17	15	54
	男性		2	1	1	1	2	7
平均年齢 (歳)	教授		54.5	56.0	51.3	53.5	51.0	53.0
	准教授			45.6	46.5	43.5	48.0	46.0
	講師			50.0	47.0	40.0	45.0	44.0
	助教			38.3	35.9	36.9	35.9	36.0

教員の採用に関する事項は、本学教授会規程に基づき、教授会で審議し(規程第 62 号第 3 条 4 項 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000111.html)、本学人事委員会規程に基づき(規程第 99 号第 1 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000151.html)人事委員会で審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により教員を選考している。具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、および採用後の専門分野の研究と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価する。平成 22 年度は、平成 23 年度採用予定の准教授 4 名、助教 12 名を選考している。なお、任期制による任期満了助教の任期満了に伴う更新審査を行い、任期更新を希望した助教 1 名を審査し任期を更新した。

4) 教育支援者

大阪府立大学羽曳野キャンパスでは、看護学部、看護学研究科と総合リハビリテーション学部、総合リハビリテーション学研究科を設置し、専任教員を看護学部、看護学研究科に 61 人、総合リハビリテーション学部、総合リハビリテーション学研究科に 38 人配置している。これら 2 学部、2 研究科の事務をつかさどるために、総務・会計・入試・学生・教務・図書業務等を担当する事務職員 15 人、派遣職員 5 人、契約職員 13 人、非常勤職員若干名を配置している。

なお、平成 17 年度からの 3 大学統合、再編、法人化に伴い分離している羽曳野キャンパスの事務のうち一元的に処理することが適当な業務については、法人本部に集約して事務の効率化を図っている。

ティーチングアシスタント(TA)については研究科会議の承認を得て、適宜活用を図っている。平成 22 年度の TA 採用人数は延べ 18 名、総時間は 524 時間であった。

また、平成 21 年度より教員支援者として看護学部教員を支援する非常勤事務職員 1 名が配置された。教材用資料複写、書類作成等の補助業務を行っている。

2. 付属組織・センター

看護学研究科は、療養学習支援センターを有するが、これは療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するという趣旨に基づき、平成 17 年から附置された。療養学習支援センターの設置趣旨および業務等は、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター規程(規程第 21 号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001711.html)に明示している。療養学習支援センターは、円滑な運営を図るため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会を設置している。運営委員会は大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会規程(規程第 22 号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001721.html)に基づき、5 名の運営委員で組織されている。センターの主な事業は、地域住民および医療機関の利用者を対象に各種の療養学習支援活動および健康相談活動、療養学習支援に関する研究活動、療養学習支援に関する学術交流活動である。

第3章 学部・研究科の運営

1. 運営組織

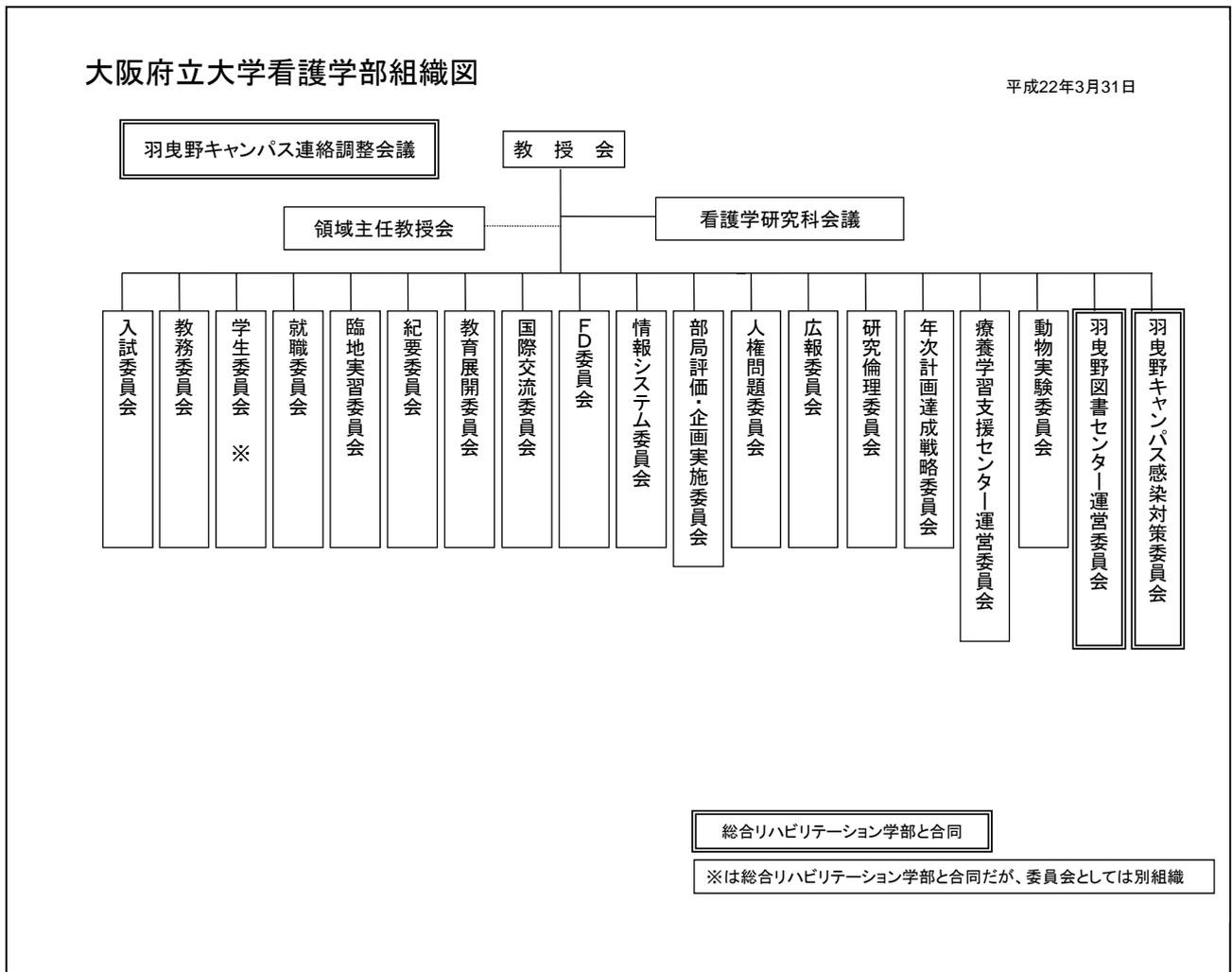
教育活動に係る重要事項を審議するために教授会を最高意思決定機関と位置づけ、その下に教育活動に係る重要事項を審議するための委員会を設置し、定期的に会議を開催し、それぞれの分掌事項を効率的に検討し、円滑に審議を進めている。

本学教授会は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了、その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項、学生の支援及びその身分に関する事項、教授会を置く組織の長から付議された教員人事に関する事項、その他教授会を置く組織の長から付議された教育又は研究に関する重要事項について審議する。教授会の下に教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等を設け、教育活動が円滑に行われるための必要な活動を行っている。資料3-1は看護学部の運営組織図である。

教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等は毎月1回の定例の会議を開催している。特に、教務委員会では、教育課程に関すること、履修に関する規程の制定及び改廃に関すること、教育の実施及び運営に関することなどについて検討し、臨地実習委員会では、教育の中の臨地実習の運営に関する事項を中心に検討し、その検討結果は教授会で報告し、重要事項については更に教授会で審議し、決定している。

看護学研究科における重要事項については、研究科会議で審議し、教授会で最終決定となる。

資料3-1 看護学部組織図



2. 委員会活動

委員会名	入学試験委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 入学試験に関する企画に関すること</p> <p>(2) 入学試験の適正かつ円滑な実施に関すること</p>
構成員	<p>高見沢学部長(委員長)、高辻教育研究会議委員、階堂教授(副委員長)、田中(京)教授、中村教授、長畑教授、堀井教授、岡本准教授、勝山准教授、中嶋准教授、別宮講師、山本・羽曳野キャンパス事務所長</p>
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 看護学部入学試験委員会(定例11回、臨時4回)</p> <p>2) 入学試験運営委員会(全学)6回</p> <p>2. 入試の実施状況</p> <p>1) 看護学研究科</p> <p>(1) 博士前期課程(8/21、第2次募集:2011/2/12)</p> <p>(2) 博士後期課程(8/22)</p> <p>2) 看護学部</p> <p>(1) 特別選抜:編入学試験(9/4)、推薦入学試験(11/20)、外国人留学生(2011/2/25、志願者なしのため実施せず)</p> <p>(2) 一般選抜:前期日程試験(2011/2/25実施)、後期日程試験(2011/3/12実施)</p> <p>3) その他</p> <p>(1) 大学入試センター試験(2011/1/15、1/16)</p> <p>(2) 工学部中期日程試験(2011/3/12)</p> <p>3. オープンキャンパス(8/7、8/8:参加者1388名)</p> <p>4. 入試ガイダンス(10/23、高校生他の学生69名、保護者他41名)</p> <p>5. 入試説明会等</p> <p>1) 来校した高校への説明会(大学体験):2件</p> <p>2) 高校訪問:7件</p> <p>3) 大学説明会等:11件</p> <p>6. 入学試験あり方部会への諮問</p> <p>選抜方式別の入学定員のあり方について(新学域への移行で入学定員が3人増加するため)</p> <p>7. アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れの検証について</p> <p>1) 入学前の状況</p> <p>推薦入試を対象に、受験生・高校側のアドミッションポリシーの理解状況を調査</p> <p>2) 入学後の状況</p> <p>看護学実習評価票の対象者への理解度に関する項目を使用したアドミッションポリシーの浸透度を、学年別に調査</p>

来年度の課題	<ol style="list-style-type: none">1. 入学試験全般について<ol style="list-style-type: none">1) 入試運営の整備・見直し2) 入試実施要領の整備・統一3) 学部教員の業務平準化に向けての努力2. 入学生の確保について 広報、高校訪問、オープンキャンパスなどの継続と改善（オープンキャンパスは広報委員会の応援を得て実施する）3. その他 事務体制の強化要望
--------	--

委員会名	教務委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育課程に関すること</p> <p>(2) 履修に関する規程の制定及び改廃に関すること</p> <p>(3) 教育の実施及び運営に関すること</p>
構成員	高辻教授（委員長）、杉本教授、楢木野教授、籬持教授、細田准教授、井端准教授、牧野准教授、和泉准教授、山本講師
活動概要	<p>平成22年度は13回の教務委員会と臨時の持ち回り委員会を開催した。</p> <p>下記の内容について重点的に活動した。</p> <p>①4月に年間の定例教務委員会の活動計画を作成し、計画にそって運営を行った。</p> <p>②保健師免許取得者の養護教諭2種免許の取得手続きの変更に伴って、速やかに対応し、憲法と健康・スポーツ科学概論の講義を羽曳野キャンパスで開講した。</p> <p>③全学教務関係委員会（教育運営会議、教務委員会、共通教育専門委員会）の報告を行い、府立大学全体の教務内容と学部教務委員会が連動して運営できるようにした。</p> <p>④全学での英語教育の充実の方針に沿って、TOEIC®「IPテスト」を実施した。</p> <p>⑤専門支持科目の単位が卒業要件を満たしていない学生の単位修得状況と必要な履修指導内容を明示した書類をアドバイザー教員に配布し、個別指導を依頼した。</p> <p>⑥前期・後期で、学生の単位修得状況を把握し、必要な履修指導内容を明示した書類をアドバイザー教員に配布し、個別指導を依頼した。</p> <p>⑦看護学部・研究科における非常勤講師の任用時間数に関する申し合わせ事項に基づき、非常勤講師の任用は教務委員会で審議することとした。</p> <p>⑧昨年度策定した新型インフルエンザ対策の指針を再度確認した。予防に必要な物品は5月に一括して会計グループで購入し、領域に配布した。</p> <p>⑨4月に行われる履修オリエンテーションの内容および配布資料を再検討し、円滑な説明会を開催した。</p> <p>⑩総合研究の選択方法を学生主体にし、簡略化した。</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新大学と新カリキュラムに伴う時間割の作成作業 ・単位の読み替え作業

委員会名	学生委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <p>(2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <p>(3) 学生の生活指導に関すること</p> <p>(4) 学生の福利厚生に関すること</p> <p>(5) 学生相談に関すること</p> <p>(6) その他学生の生活に関すること</p>
構成員	上野教授（委員長）、青山教授、石澤准教授、郷良准教授、田中（結）准教授、鎌田准教授、佐藤准教授、
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 羽曳野キャンパス学生委員会（羽曳野キャンパス共通・看護学部 10 回）</p> <p>2) 全学学生委員会 5 回（臨時 2 回）</p> <p>3) WEBS C 運営委員会 2 回</p> <p>4) 障がい学生支援センター運営委員会 1 回</p> <p>5) 全学アドバイザー大会 1 回</p> <p>2. 活動状況</p> <p>1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <p>〈休学〉申請者</p> <p>22 年後期休学者：学部 4 名、大学院 4 名</p> <p>23 年前期休学者：学部 5 名、大学院 5 名</p> <p>〈退学〉</p> <p>前期末：大学院 1 名</p> <p>〈除籍〉</p> <p>なし</p> <p>2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <p>〈表彰〉</p> <p>前期：学部 4 名（杏樹賞）学長顕彰は該当者なし</p> <p>後期：学部 5 名、大学院 1 名（杏樹賞）</p> <p>学長顕彰 学部団体 1 組</p> <p>3) 学生の生活指導・相談に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前の学生の状況把握 ・アドバイザー活動報告まとめ（別紙参照） <p>4) 学生の福利厚生に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生意見箱への対応 ・大学院自習室の環境整備 ・大学院パソコンの整備 ・大学院自習室の年末年始の運用について検討

	<p>5) 学生の生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月学生研修の実施 ・4月履修説明会の準備、実施 ・学生生活の手引きの修正 ・「私の健康手帳」の作成、説明 ・杏樹祭における学生の運営状況の見回り、監督 ・学位記授与式における準備、当日の進行（予定） <p>6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院授業料減免対象者の評価 ・大学院奨学金返還に関する評価 ・盗難2件（学内2件）についての学生周知 ・友好祭物品貸し出しの相談 ・謝恩会の相談 ・長期履修生への土曜日の事務局対応について
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室の利用を活発化 ・盗難を予防する対応
その他 (人員構成等)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員会の活動に表彰及び処分があるので、教授2名（委員長を含め）は必要である。 ・規定のメンバーより多くなっているが、新入生学生研修・ガイダンス等、杏樹祭、学位記授与式など学生に関する行事の時はマンパワーを必要とするので、現状配置が必要である。 ・学生委員会と実習、実習施設との連絡調整が重なる教員が多く、委員会の運営に若干支障があった。

委員会名	就職委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 就職業務方針に関すること</p> <p>(2) 就職の相談及び指導に関すること</p> <p>(3) 求職、求人に関すること</p> <p>(4) 就職についての調査に関すること</p> <p>(5) その他就職に関すること</p>
構成員	星教授（委員長）、町浦教授、石澤准教授、和泉准教授、牧野准教授、吉川講師、別宮講師、齋野助教
活動概要	<p>活動概要</p> <p>1. 就職ガイダンス</p> <p>第2回就職ガイダンス（6月）：4年生対象「就職活動について」 ～卒業生新卒者を迎えて～</p> <p>第3回就職ガイダンス（10月）：4年生対象「国家試験の準備について」 （11月）：4年生対象「国家試験の手続きについて」</p> <p>第4回就職ガイダンス（2月）：4年生対象「国家試験受験票配布」 「就職にあたって」「私の記録」のUSB配布</p> <p>第1回就職ガイダンス（2月）：3年生対象「就職活動について」</p> <p>2. 学生への就職支援</p> <p>1) 模擬面接：平成21年6月から7月に実施 39名</p> <p>2) 病院就職説明会 大阪府立病院機構：6月7日、病院合同説明会：6月10日 49施設</p> <p>3) 学生の個別相談 ・随時対応、地域看護（保健師）関係</p> <p>3. 施設対応（委員長、事務）</p> <p>4. 就職に関する事務関係（事務） ・就職情報、就職支援室の管理、学生の就職状況の把握（進路報告のWeb化）</p> <p>5. 国家試験に関すること ・受験準備、指導、受験手続（就職ガイダンス） ・合格発表時の対応</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回就職ガイダンス（3年生）の時期を実習前に変更。 ・府立病院機構の教育担当者等による病院の概要・実習指導体制などを含むものとする。 ・依頼等の具体的準備を行う。

委員会名	臨地実習委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨地実習の目的・目標に関すること (2) 臨地実習の運営に関すること (3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること (4) 臨地実習に関する規程の制定及び改廃に関すること (5) その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
構成員	杉本教授（委員長）、桑名教授、楢木野教授、井端准教授、佐藤准教授、林田准教授、松田准教授、太田講師、大川講師、石橋助教、森木助教
活動概要	<p>1. 主な委員会活動の回数 委員会 11 回、実習オリエンテーション 2 回（基本実習、応用実習）、5 医療センター臨地実習連絡会 1 回</p> <p>2. 所管事項については、「実習運営担当」「5 医療センター担当」「実習関連情報管理担当」と分担して、実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習進捗表および学生配置表等（基本実習・応用実習）の作成 2) 実習オリエンテーション（基本実習・応用実習）および実習科目選択説明会等の実施 3) 実習要項の印刷、全体の実習要項について感染対策に係る部分を一部改正 4) 5 医療センター臨地実習連絡会の企画・実施 5) 5 医療センターの H23、24、25 年度の実習計画の作成ならびに各施設担当教員と連携した施設との実習調整 6) 学生による臨地実習評価のアンケートの実施およびデータの分析、報告書の作成 7) 平成 22 年度臨地実習における事故報告のまとめと報告 8) 総合実習の実習要項の内容および作成・配布時期などのスケジュールの検討
来年度の課題	<p>・来年度より 3 年次生の新しい実習が開始となるため、実習オリエンテーション時期、方法、内容について検討が必要となる。</p>

委員会名	紀要委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 紀要に関すること</p>
構成員	堀井教授(委員長)、鎌田准教授、大川講師、前川助教
活動概要	<p>1. 委員会開催数 10回</p> <p>2. 紀要第17巻第1号(原著3編、研究報告5編、資料4編)の発行:(2011.3)</p> <p>羽曳野キャンパス教員、看護学研究科院生、近隣施設および全国約220施設に配布</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も掲載論文数5編以上を確保する。

委員会名	教育展開専門委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 公開講座の企画立案及び実施に関すること (2) 地域交流に関して必要なこと
構成員	長畑教授（委員長）、垣本教授、中嶋准教授、池田准教授、梶村助教、古山助教、中山(由)助教、山内助教
活動概要	<看護学部での活動> 1. 羽曳野キャンパス公開講座の企画・運営 10/19、26、11/2、9 の計 4 回実施。H22 年度は総リハ学部が主担で、看護学部はこのうち 1 回を担当した。 テーマは「快適な人生 (QOL) をめざして～健康についての最新の話～」、受講者は 87 名、4 回の述べ受講者は 296 名。昨年と比較し参加者数は若干減少したが、アンケート集計の結果、75%の参加者が「とても良かった」「良かった」と回答し、役立つ知識が「大いに得られた」「やや得られた」の回答が 72%であった。 2. はびきの市民大学の府大担当枠の講師推薦と調整 11/17～1/26 の水曜日計 8 回のうち、2 回分を看護学部が担当し、講師の推薦と調整を行った。 3. はびきの健康フォーラムへの講師派遣（羽曳野市、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターとの共催） 4. 花（さくら）まつりでの看護学部企画 「感染症予防」講演または「手洗い講習会」を企画した。 <全学での活動> 1. 府大講座担当依頼（講師：青山ヒフミ教授「医療安全と看護」8/26 依頼は5月） 2. 全学の教育展開専門委員会に出席（6月）
来年度の課題	1. 羽曳野キャンパス公開講座・はびきの市民大学：次年度は看護学部が主担当となり、公開講座 3 回、市民大学 6 回を担当する。テーマとプログラム内容、講師の決定は早期に行う必要がある。 2. はびきの健康フォーラム：個人交渉での講師派遣でなく、次年度は企画段階から委員長が入る必要がある。 3. 花（さくら）まつりでの学部企画について、今後も継続するのであれば方向性を検討する必要がある。

委員会名	国際交流委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること</p> <p>(2) その他、国際交流に関して必要なこと</p>
構成員	<p>垣本教授（委員長）、中山(美)教授、吉川講師、小笠講師、山本講師、根来助教、古谷助教</p>
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ マヒドン大学との交流事業 <ul style="list-style-type: none"> 大学院生2名を2週間マヒドン大学に派遣 委員長がマヒドン大学を訪れ、マヒドン大学看護学部長らと会談 ・国際看護セミナーの実施 <ul style="list-style-type: none"> 第15回 国際看護セミナーを実施 参加人数 58名（うち一般参加者28名） 「看護職による国際貢献」パネルディスカッションのタイトルで3名の日本人講師を招請 JICA大阪の後援
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ マヒドン大学の院生受入れ <ul style="list-style-type: none"> 経費の確認（宿泊と交通費）、交際費などの寄付の件 ・学部の国際化 <ul style="list-style-type: none"> 国際交流機構との連携強化 留学生受入れなど 外国人講師

委員会名	ファカルティ・ディベロップメント委員会
目的	<p>委員会は、教員および学生を対象として次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育内容・教育方法の改善に関すること</p> <p>(2) 教員の教育・研究能力の向上に関すること</p> <p>(3) 教育・研究活動の評価の実施に関すること</p>
構成員	<p>榎木野教授（委員長）、長畑教授、田中（結）准教授、石澤准教授、太田講師、椿助教</p>
活動概要	<p>授業評価・参観担当(石澤、長畑)：ピア授業参観を導入し、参観科目提供の呼びかけ、参観情報提供と参観後の事後報告の分析を行う。ピア評価を計画し、実施した。FD委員6名が評価担当委員を担当した。</p> <p>セミナー担当(田中、太田、椿、榎木野)：テーマを教員のレベル向上に向けたもの、教員間の情報交換に関するもの、学生指導に活かすもの、として3回のセミナーを企画した。</p> <p>第1回「アサーティブ・ネゴシエーションスキルアップ研修」を企画・運営し、51名の教員・院生の参加があった。アンケートから「よかった」との評価を得た。</p> <p>第2回目「第1回教員研究紹介セミナー・在学研究報告会」を企画し、52名の教員・院生の参加があった。</p> <p>第3回目セミナーでは、本学カウンセラー・看護師を交えたグループ討議を3月に企画した。</p> <p>授業アンケート担当(太田、榎木野)：前期・後期授業アンケートの回収率を上げるため、講義内での学生への呼びかけを教員に依頼すると共に、ポスターを作成し、アンケート回答への啓発を行った。</p>
来年度の課題	<p>①授業評価・参観：平成21年度採用教員に対する授業評価を続行する。参観実施状況を分析し、参観の今後の進め方を検討するとともに、実施をする。</p> <p>②セミナー：タイムリーなテーマを取り上げて継続していく。参加者数を増やす工夫を検討する。</p> <p>③授業アンケート：全学で23年度のみ授業アンケートの実施予定になっている。呼びかけを行う。24年度ポートフォリオの導入に向けて、ポートフォリオワーキング委員との連携のもと、準備をする。</p>

委員会名	情報システム委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 情報システムに関すること</p> <p>(2) Webページのコンテンツの管理運用に関すること</p> <p>(3) その他情報システムの運営に関すること</p>
構成員	<p>階堂教授（委員長・学術情報センター情報システム委員会委員）、</p> <p>勝山准教授（システム管理担当者）、岡本准教授（システム管理担当者）、</p> <p>江口助教（システム管理担当者）、橋弥助教（システム管理担当者）</p>
活動概要	<p>学術情報センター情報システム委員会開催後に、必要に応じてメールによる連絡や委員会会議を開催している。</p> <p>1) 第1回委員会（4月30日開催）</p> <p>(1) 委員会規程の確認</p> <p>(2) 第1回学術情報センター情報システム委員会報告 （平成21年度情報セキュリティ計画の実施結果、次期教育研究系システム進捗報告、次世代情報システムキャンパスネットワークシステムについてほか）</p> <p>2) 第2回委員会（7月13日開催）</p> <p>(1) 第3回学術情報センター情報システム委員会報告</p> <p>(2) 次世代情報システムへの移行に伴い懸念される事項</p> <p>3) 第3回委員会（12月27日開催）</p> <p>(1) 学術情報課より依頼のあった「教育研究支援システム導入ライセンスの継続利用の意向及び教育・研究用キャンパス全学利用共通ライセンス導入希望」調査については、各領域で検討した後、委員会で取りまとめて回答した（キャンパスライセンスとしてSPSSとSASの継続利用、研究室からアプリケーションサーバに接続して利用できるように演算サービスとしてSPSSを新規に要望）。</p> <p>(2) 第7回および第8回学術情報センター情報システム委員会報告</p> <p>4) 第4回委員会（2月9日開催）</p> <p>(1) 退職予定教員を対象とした退職時に保有する非公開情報に関するリストについて</p> <p>(2) 新任教員へのオリエンテーションについて</p> <p>(3) 第9回学術情報センター情報システム委員会の報告</p>
来年度の課題	<p>・情報セキュリティポリシー等改訂（来年度施行予定）にともない、学部教員に改訂事項を周知徹底させる。</p>

委員会名	部局評価・企画実施委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 自己点検・評価の実施に関し必要なこと
構成員	高見沢学部長、高辻教育研究会議委員、中山(美)教授(委員長)、青山教授、細田准教授、池田准教授、郷良准教授、北村助教、長谷川助教
活動概要	<p>1. 部局における活動</p> <p>1) 委員会の開催：8回</p> <p>議題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度年報の作成に関する事 ・平成20、21、22年度自己点検評価報告書の作成に関する事 ・看護学部における改善を要する事項に対する取り組みに関する事 <p>2) 平成21年度年報 平成22年1月末に完成し、看護学部全教員および看護系大学に配布を行った 次年度も同様の構成とすることとした</p> <p>3) 平成20、21、22年度自己点検報告書 平成22年度の新データを入れて最終版を次年度の6月末に完成させる予定</p> <p>2. 大学全体における活動</p> <p>1) 自己点検評価報告書 看護学部の自己点検評価報告書とまとめるとともに、大学全体の自己点検報告書をまとめる。</p> <p>2) 教員業績評価に関する事 次年度から試行する教員業績評価に関する検討を行った。教員業績は本委員会が担当するのではなく、評価グループワーキングを立ち上げることとなった。</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20、21、22年度版の看護学部自己点検報告書の完成を6月末までに行うこと ・平成22年度の年報の完成および評価

委員会名	人権問題委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 人権問題の教育に関すること</p> <p>(2) 人権問題の啓発及び防止・対策等に関すること</p> <p>(3) 人権問題についての諸機関との連絡に関すること</p> <p>(4) その他人権問題に関し必要なこと</p>
構成員	<p>高辻教育研究会議委員、簗持教授（委員長）、杉本教授、上野教授</p> <p>山本・羽曳野キャンパス事務所長</p>
活動概要	<p>年度当初に、前年度委員長より、委員会の目的と前年度の活動内容の報告を受け、「人権問題の啓発に関し、必要な事項を審議する」という委員会の目的に基づき、①講演会への参加の促進、②人権に関わる必要事項が生じた場合の審議、対処という活動計画を立案した（本年度の学部としての委員会活動は予算化されていないため、前年通りの活動計画とした）。</p> <p>本年度は特に府立大学として、看護学部として人権に関わる早急に審議、解決すべき事項はなく、「府立大学教員並びに学生として身につけておかなければならない人権意識等を学び、多様な人権の視点を持って行動できるようになること」を目的に下記に通りの講演会を実施し、看護学部として委員会委員を含む7名の教員が出席した。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 日時：平成22年11月19日（金）14:35～16:05</p> <p>2. 場所：羽曳野キャンパス B201 会議室（遠隔中継）</p> <p>3. 講師：大阪府立大学人間社会学部 東 優子 准教授</p> <p>4. テーマ：性の多様性と現代社会</p>
来年度の課題	<p>・講演会は看護学部の実習時期と重なり、学生や教員の参加に限界があるため、学生や教員が参加しやすい時期などを検討する必要がある。</p>

委員会名	広報委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) パンフレット等の作成に関すること</p> <p>(2) ホームページ等の広報に関すること</p> <p>(3) 各号の掲げるものの他、広報活動に関すること</p>
構成員	田中(京)教授(委員長)、星教授(副委員長)、堀井教授、井端准教授、松田准教授、小笠講師、平松助教、森助教、大森助教
活動概要	<p>広報委員会では、原則として月1回の会議開催をおこない、必要時臨時会議およびメール会議を行った。主な活動内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究科専門看護師(CNS)コース紹介パンフレットの作成 <p>本学のCNSコースの存在および意義を府民に伝えるための広報活動として、CNSの活動紹介とCNS養成に携わる看護学研究科の教育内容を紹介するパンフレットを作成した。昨年度は母性、急性、がん、地域(在宅)看護分野の紹介だったため、今回は小児、精神、慢性、地域分野におけるCNSの活躍について掲載した。パンフレットは、近畿圏内の病院および看護師養成施設、実習先病院、看護協会、府内情報プラザ等に配布した。</p> 2. 創基130年事業への取り組み <p>大阪府立大学創基130年事業の準備および企画委員会に参加し、事業についての情報発信活動を行った。</p> 3. 学部紹介パンフレットのデザイン(一部)変更および内容更新 <p>(新)看護学類紹介パンフレット作成準備</p> <p>一部デザインの変更および内容更新を行い、5月下旬に発刊した。</p> <p>現在は平成24年度入試に向けて新学類・学域の内容を盛り込んだパンフレット作成に向けての準備を行っている。</p> 4. 大学院紹介パンフレットのデザイン(一部)変更および内容更新 <p>一部構成の変更と内容更新を行い、5月中旬に発刊した。</p> 5. Webページ(学部・大学院)およびモバイルサイトの整備および内容更新(随時/月) <p>e-learning Can Go サイトを看護学部HP内へ移転した。また、看護学部HP(Webページ・モバイルサイト)において、オープンキャンパス・入試ガイダンスをはじめとする学内行事・イベントの広報活動を行った。</p> 6. 教員個人ページの更新 <p>看護学部の教員紹介ページの内容更新を行った。</p>

	<p>7. Webサイトアクセスレポートの分析</p> <p>看護学部HP訪問者数の動向を知るために、月ごとのWebサイトアクセス状況について年間の動向を分析した。現状では、訪問者数は3-4月、6-8月（オープンキャンパス時期）、10月（入試ガイダンス時期）に延べ5000件前後のアクセスが行われている。</p>
<p>来年度の課題</p>	<p>原則的には平成22年度の活動を踏襲しながら、新学域・学類に関する広報物の作成を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○看護学類の広報内容については、なかまず本部の活動内容を勘案して検討を始める。 ○看護学類紹介パンフレットを新たに作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・新学類のカリキュラムに合わせて、パンフレットの内容および構成を刷新する。教務委員会の協力が必要。 ○看護学部HPについては、引き続き定期的な更新を継続する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な内容が適切な時期にアップできるように、学内からの情報提供を募っていく。特に各委員会活動のキャッチが課題である。 ○大学院紹介パンフレットについては、5月初旬完成を目指す。 ○看護学研究科CNSコース紹介パンフレットについては、3分野（感染、老年、家族）の紹介が行えていないが、まだ修了生が出ていない分野もあるため、発行に関しては今後検討が必要。 ○入試広報に関する活動を強化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・入試委員会が企画したオープンキャンパス・入試ガイダンス活動に積極的に協力・参加する。

委員会名	研究倫理委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教職員及び看護学研究科学生が行う人間を対象とする研究の倫理審査に関すること</p>
構成員	<p>看護学部：高見沢学部長、青山教授(委員長)、垣本教授、楢木野教授、桑名教授、勝山准教授</p> <p>事務所：山本事務所長</p> <p>外部委員：川瀬委員、山田委員、北村委員</p>
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度は研究倫理委員会として、合計 6 回の委員会を開催し 84 件の倫理審査申請書を審議した。(博士前期課程-29 件、博士後期課程-23 件、教員-30 件、研究生-1 件、外部より学部生対象のアンケート依頼の審議-1 件) ・研究倫理への意識向上と審査をスムーズに進行させるために、チェックリスト案を作成した。 ・研究倫理に関するオリエンテーションを院生、教員に平成 22 年 4 月 12 日に実施した。
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度に作成したチェックリスト案を来年度に試行する。教授会（平成 23 年 3 月）にはかった上で承認が得られれば試行したい。これに伴い一部不具合のあった申請書の書式を変更する。試行終了後に併せて規定を改定することとする。 (山中前委員長よりの引き継ぎ事項：平成 21 年度に山本所長が文言等の修正案を出されているので、その際、文言等も併せて検討する)

委員会名	年次計画達成戦略委員会 (公立大学法人大阪府立大学計画作成ワーキンググループ)
目的	公立大学法人大阪府立大学の中期計画及び年度計画の作成・管理について検討を行う。 (部局・学部において検討)
構成員	高見沢学部長、町浦教授(委員長)、中村教授、細田准教授、岡本准教授、池田准教授、松田准教授、山居助教、竹下助教
活動概要	<p>○公立大学法人大阪府立大学計画作成ワーキングの活動に基づき、年度計画の進捗管理及び実績の作成、平成 23 年度からの第 2 期中期計画の作成及び変更、平成 23 年度の年度計画の作成に関する会議を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 4 月 26 日 第 1 回会議 平成 21 年度事業実績調査表の作成 ・平成 22 年 11 月 29 日 第 2 回会議 平成 22 年度計画実績の進捗管理 (10 月 1 日時点) ・平成 23 年 1 月 20 日 第 3 回会議 平成 23 年度計画(案)作成 <p>○第 2 期中期計画作成の検討を中心に計 11 回の計画作成ワーキンググループ会議に委員長が出席し、教授会で報告した。中期計画作成については随時メール会議を行い、委員や教授会メンバーの意見を集約した。</p>
来年度の課題	・平成 23 年度予算計上の必要なし

委員会名	大学院看護学研究科附置研究所 療養学習支援センター運営委員会
目的	<p>第1条 この規程は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(平成17年公立大学法人大阪府立大学規程第61号)第6条第2項の規定に基づき、療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。</p> <p>(業務)</p> <p>第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 療養学習支援の研究・教育に関すること</p> <p>(2) 療養学習支援の実践に関すること</p> <p>(3) 療養学習支援に関する情報の提供に関すること</p> <p>(4) 療養学習支援に関する学術交流に関すること</p> <p>(5) その他センターに関し必要なこと</p>
構成員	高見沢学部長(センター長)、中村教授(主任)、中山教授(副主任)、階堂教授、籀持教授
活動概要	<p>1. プロジェクト研究・活動助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究3件、活動2件 助成金額 1,694千円 助成なしの活動4件 ・活動報告会の開催 平成23年2月9日(水) <p>2. 広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの制作、ホームページのデータ更新 ・府大広報誌(10月号)への掲載 <p>3. 健康フェア開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月24日(日)に開催、参加者52名 ・身体計測、握力、骨密度、体組成、動脈硬化度などの測定、健康相談、健康体操を実施 <p>4. 年報制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・350部、看護系大学協議会加入校などに送付予定 <p>5. 闘病記文庫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽曳野図書センターに委託。新刊図書の選書、購入 <p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備品の移動(N204からD408)、管理 ・AED講習会、国際セミナーは、企画したが、実施することができなかった。 <p>7. 運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の開催は9回。
来年度の課題	・プロジェクト研究・活動の拡大を図る必要がある。

委員会名	領域主任教授会
目的	次の事項について検討を行う。 (1) 教員の教育、研究、社会貢献、学部運営における活動に関すること (2) 予算の管理に関すること (3) 各領域間の調整に関すること (4) その他領域の運営に関すること
構成員	高見沢学部長、高辻教育研究会議委員、星教授、町浦教授、田中(京)教授、上野教授
活動概要	開催状況：毎月2回のペースで開催した。(定例21回、臨時2回) 検討事項： ・領域主任教授会規定に基づき、教授会、研究科会議の検討事項のうち、事前検討の調整が必要なものについて検討した。 (役割の担当) 人事：高見沢、高辻 予算：星、町浦、田中 施設・設備：高辻 学生関連：上野 ・平成22年度は通常の人事管理、予算管理以外に、大阪府立大学再編に伴う看護学類の教育課程、看護学研究科博士論文審査要項、大阪府立病院機構との連携強化、教員業績評価の評価指標などを検討した。
来年度の課題	・府立大学全体の方針に基づきながら、看護学類の教育課程を整備する。 ・看護学研究科における高度実践看護師教育の在り方を検討する。

委員会名	羽曳野図書センター運営委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 図書センターの運営に関すること</p> <p>(2) その他、図書センターの重要な事項に関すること</p>
構成員	<p>桑名教授（委員長）、林田准教授、山居助教、山田助教</p> <p>総合リハビリテーション学部教員 4名</p>
活動概要	<p>1. 月に1度の開催</p> <p>○学術情報センター図書委員会における審議事項等の報告及び 羽曳野図書センターとして対応すべき検討事項の審議</p> <p>○羽曳野図書センターの運営に係る事項の検討</p> <p>主な活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 図書カレンダー 開館時間、休館日の承認 2) 貸し出し冊数、期間の検討 3) 電子ジャーナルの検討 4) 図書館利用に関するアンケート 5) 選書会議 6) 学生選書委員の選出 7) 購入雑誌の重複調整 8) 羽曳野図書センター主催・共催の催事に関する事項 9) 学外文献複写サービス 10) 広報誌図書センターNews 11) 新入生に推薦する100冊 選書 12) その他
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の向上 ・無線LAN等の整備

第4章 学生の受け入れ

1. 看護学部

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成16年度に制定した（資料4-1-1-1）。

資料4-1-1-1 看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

少子化、高齢化、国際化など社会構造の変化と国民のニーズの多様化、医療の高度化、専門化を背景に、わが国の看護・医療は大きく変わりつつあります。その中で看護職の占める役割はますます重要になってきています。看護学部では生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし豊かな人間性を形成するとともに、看護の専門的知識・技術をもって社会ニーズに応えて、幅広い分野で活躍できる看護専門職者を育成し、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

したがって、看護学部では次のような学生を求めています。

- ①人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人
- ②幅広い学問分野に支えられた専門的な看護に必要な知識・技術を主体的、積極的に修得できる高い基礎学力をもった人
- ③保健・医療・福祉などの場において他のヒューマンサービスを提供する人々と連携することのできる柔軟性を有しリーダーシップのとれる人

看護学部の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、選抜要項や募集要項に掲載したほか、Webページや携帯サイト上にも掲載して公表に努めた。

- ① 「平成23年度入学者選抜要項（p.4）」
- ② 「平成23年度学生募集要項（一般入試）（p.4）」
- ③ 「平成23年度学生募集要項（2年次編入学試験）（p.1）」
- ④ 「平成23年度（2011年度）推薦入学学生募集要項（p.1）」
- ⑤ 「平成23年度（2011年度）外国人留学生特別選抜学生募集要項（p.4）」
- ⑥ Webページ（URL：http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/kango_rinen.html）
- ⑦ 携帯サイト（URL：<http://osakafu-u.ac.jp/osakafu-u/>）

「平成23年度学生募集要項（2年次編入学試験）」は近畿圏の158の大学・学部へ送付し、「平成23年度（2011年度）推薦入学学生募集要項」は、大阪府内の高等学校267校へ送付した（出願の多い学校へは3部送付）。平成22年8月7日・8日に開催したオープンキャンパス（高校生他の学生961名、保護者他427名参加）、平成22年10月23日に開催した入試ガイダンス（高校生他の学生69名、保護者他41名参加）では、学部説明の中でアドミッション・ポリシーについて説明し、募集要項等の資料の配布を通して周知の機会とした。

(2) 一般選抜入試

大学入試センター試験については、前期日程、後期日程ともに、平成17年度より5教科6科目としてセンター試験の配点を800点とした。アドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、センター試験では外国語（英語）のリスニングテストを課している。

個別学力検査については、同じくアドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、平成20年度入学者選抜より前期日程試験において新たに外国語（英語）を加え、試験時間60分、配点100点とした。前期日程の小論文試験では試験時間を90分、配点200点とし、アドミッション・ポリシーの「幅広い学問分野に支えられた(中略)高い基礎学力を持った人」の選抜に努めた。後期日程の小論文試験では試験時間120分、配点300点とし、「人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人」を選抜するために、人間理解に絞った問題とした。

前期日程試験はセンター試験800点、小論文200点、外国語(英語)100点の計1100点で、また後期日程試験はセンター試験800点、小論文300点の計1100点で判定を行った。

(3) 特別選抜入試

①外国人特別選抜（留学生）

平成17年度から新たにTOEFLを課した。選抜方法は小論文試験、面接試験、日本留学試験の成績、成績証明書、TOEFLで総合的に判定する。募集人員は若干名である。また、平成19年度から出願資格に次の3点を付加している。

- 1) 日本留学試験の「日本語」の得点が220点以上
- 2) 日本留学試験の「理科」と「数学(コース1またはコース2)」の合計得点が200点以上
- 3) TOEFLの得点がPBT：450点、CBT：133点、iBT：45点以上。

②2年次編入学試験

看護師・保健師・助産師を志す多様な人材を受け入れるために2年次編入学試験を実施している。出願資格としては、学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成22年3月に卒業見込みの者等を条件としている。小論文試験と面接試験については、アドミッション・ポリシーを反映した内容としている。入学者の選抜は、筆記試験、面接試験の結果及び出願書類を総合的に判定して行っている。

③推薦入学試験

出願できるのは、「調査書の全体の評定平均値4.0（5点満点）以上である者」「看護学に関する知識と技術の修得に熱意をもち、学力、人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦する者」等の条件に該当する者である。1高等学校等で推薦できる人数は、大阪府内の高等学校等は3名以内、その他の高等学校等は1名としている。入学者の選抜は、小論文試験（英文資料の読解を含む）、面接試験の成績、調査書及び推薦書等を総合的に判定して行っている。

2) 入学者選抜の実施体制

入学試験に関する企画と適性かつ円滑な実施を図ることを目的として、看護学部入学試験委員会が設けられている。委員会は学部長を委員長とし、教育研究会議委員、教授会が選出した教授5名、教授会が選出した教員2名、羽曳野キャンパス事務所長、その他委員会が必要と認める者から構成され、平成22年度は12名で運営された。さらに、入学試験に関して、大学全体の全学入試運営委員会、入学試験あり方部会、出題採点部会、入試広報部会にも学部の入試委員が参加することで、大学全体との調整を図った。

試験実施は入試委員を中心とする教員が試験監督、面接試験委員を務め、事務担当者が試験会場の設営、入試

事務に関する業務を行った。試験当日の実施について、担当者に対しては必ず実施に関するオリエンテーションを行い、担当業務が責任を持って正確に行われるよう確認した。試験実施に関して、受験生からの試験に関するクレーム等は全くなかった。

合格者の決定については、試験の種類により決められた選抜基準に基づき、入学試験委員会において合否判定資料案を作成した後、教授会の審議により合格者を決定した。

3) 入学者受け入れの現状

平成23年4月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

資料4-1-3 平成23年 看護学部入学者

	選抜方法等	募集人員 (名)	入学者数 (名)
一般選抜	前期日程	50	51
	後期日程	12	13
特別選抜	外国人特別選抜	若干名	0
	2年次編入学	10	10
	推薦入学	55	55

2. 看護学研究科

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」（資料4-2-1-1）を平成16年度に制定した。

資料4-2-1-1 看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することを目指しています。

●前期課程

博士前期課程では、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目標にしています。このような目標を達成するため、博士前期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ①看護倫理に基づく看護・看護学へのコミットメントを有していること
- ②論理的思考力や課題探求力と併せて、専攻する学問分野の専門的基礎および応用能力と国際的関心を有していること
- ③高度専門職業人として、看護実践ならびに看護学の発展に貢献する意欲を有していること

●後期課程

博士後期課程では、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進してその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目標にしています。このような目標を達成するため、博士後期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ①探究心旺盛で創造的に看護の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有していること
- ②専門分野について深い基礎および応用能力を有し、多様な学問分野への高い関心と国際的な視野を備えていること
- ③豊かな人間性ととも、看護の社会的認知を高め看護学ならびに看護実践・教育の発展に貢献する熱意を有していること

看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、募集要項に掲載したほか、Webページ上にも掲載して公表に努めた。看護学研究科の学生募集要項は、看護系の大学(106件)や病院(226件)に対して送付している。

- ① 「大阪府立大学大学院看護学研究科学生募集要項 (p.1)」
- ② Webページ (URL: http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra_top.html)

(2) 入学試験

博士前期課程では外国語（英語）、専攻科目、面接試験を実施し、専攻科目試験はきめ細かく適性を判断するために各領域・分野ごとの出題としている。博士後期課程では外国語（英語）、専門科目（全分野共通）、口述試験を行っている。いずれもアドミッション・ポリシーに見合う専攻科目・専門科目と面接試験・口述試験を実施している。

2) 入学者選抜の実施体制

研究科の入学試験についても、看護学部入試委員会において企画とその実施が適性かつ円滑に行われるような体制が整っている。平成 22 年度は前期課程で第 2 次募集が行われたが、問題なく入学試験は実施された。

3) 入学者受け入れの現状

平成 23 年 4 月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

資料 4-2-3 平成 23 年 看護学研究科入学者

看護学研究科		募集人員 (名)	入学者 (名)
	博士前期課程	26	25
博士後期課程	5	6	

3. 科目等履修生制度、研究生の受け入れについて

看護学部では、高等学校を卒業した者またはそれと同等以上の学力があると認められた者が看護学部の授業科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。平成 22 年度は科目等履修生の応募はなかった。

看護学研究科では、看護系大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者が、看護学研究科の講義科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。また大学卒業見込み又はこれと同等以上の学力があると認められた者が研究について指導を受けることのできる大学院研究生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。平成 22 年度は 3 名の科目等履修生と 2 名の大学院研究生を受け入れ、専門的学術を教授し、健康と福祉の向上に寄与する研究を指導した。

第5章 教育内容及び方法

1. 教育課程の編成・授業科目の内容

1) 看護学部

看護学部では、生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成することを教育目的とし、これを達成するために教育課程が編成されている。その編成は、幅広い教養を身につける「教養科目・基盤科目」、看護学の基盤教育としての「専門支持科目」、看護学の「専門科目」からなる。教養教育は、大阪府立大学全体の教養教育と基礎教育を担う総合教育研究機構が実施している。看護学の「専門科目」は、「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「総合」（平成21年度入学生からは「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」）から構成している。

「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」、「専門科目」は、学習の順序性を考えて体系的に配置している（資料5-1-1-1,2）。「教養科目・基盤科目」は主に1年次に配置し、国際的な視野で貢献できる能力を養う実用英語習得のための英語教育は1年次、2年次に配置している。「専門支持科目」は、主に1年次、2年次に配置し、からだの構造や機能、病態や疾病、チーム医療に関連する知識や能力等を理解するための科目等を開設している。

「専門科目」は、1年次から4年次に配置し、「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」の専門領域別の科目では、看護に必要な知識と技術および科学的根拠に基づく問題解決能力を養う内容が含まれている。さらに、専門領域別の実習を1年次から4年次に配置し、保健・医療・福祉などの分野において、看護の実践能力および調整的能力を養う内容となっている。「総合」（平成21年度入学生からは「看護の統合と実践」）では、看護学への関心を深め、総合的な視野と看護学研究の基礎能力を養うための科目等を開設している。

また、平成18年度より転学部制度を導入し、南大阪地域の大学と南大阪コンソーシアムとして協定を結び、互換可能な開講科目について単位認定を可能にしている。

資料 5-1-1-1 看護学部 卒業要件 授業科目一覧 (平成 20 年度入学生まで)

卒業要件単位	科 目	必 修	選 択	計
	教養科目・基盤科目	10	20	30
	専門支持科目	24	4	28
	専門科目	59	11	70
	計	93	35	128

区分	授 業 科 目		授 業 時 間 数			卒 業 要 件 単 位	備 考	区 分	領 域	授 業 科 目 名		単 位		授 業 時 間 数			卒 業 要 件 単 位
	授 業 科 目 名	必 修	選 択	講 義	演 習					実 習	必 修	選 択	講 義	演 習	実 習		
共 通	教養科目					30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	羽曳野キャンパスで開講される科目	専 門 支 持 科 目		形態機能学 I	2		60		28 単位以上 (必修科目 24 単位 + 選択科目 4 単位以上)		
	生命倫理学	2		30						形態機能学 II	2		45				
	音楽と生活		2	30						運動生理学	1		30				
	造形と生活		2	30						生化学 I	1		30				
共 通	家族社会学		2	30		10 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		病理学	1		15		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	心理学		2	30						疾病・治療論 I	2		60				
	医療と社会		2	30						疾病・治療論 II	1		30				
	医療と法		2	30						疾病・治療論 III	1		30				
共 通	人間発達学		2	30		10 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		医療遺伝学	1		30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	化学		2	30						微生物学	1		30				
	生物学		2	30						薬理学	1		30				
	健康スポーツ科学科目									臨床心理学	1	1	30				
共 通	健康・スポーツ科学演習 I			30		10 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		健康と社会・環境 I	1		30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	健康・スポーツ科学演習 II			30						栄養学総論	1		30				
	外国語科目 (英語を除く)									疫学	2		30				
	中国語基礎 I		2	30						保健情報学	1		30				
共 通	中国語基礎 II		2	30		10 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		医療と社会福祉学	2		45		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	朝鮮語基礎 I		2	30						行動科学	2	2	30				
	朝鮮語基礎 II		2	30						人間工学	2	2	30				
	一般情報科目 (選択)									コミュニケーション論	1		30				
共 通	情報基礎 A I		2	30		10 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		チーム力動論	1	1	15		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	情報基礎 A II		2	30						チーム医療論	1		15				
	外国語科目 (英語)									総合リハビリテーション論	1		15				
	英語 A I		2	30						カウンセリング	1	1	15				
共 通	英語 A II		2	30		10 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		看護学概論	2		30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	英語 D I		2	30						人・環境支援技術論	1		30				
	英語 D II		2	30						人・環境支援技術 I	1		45				
	(1 年次中百舌鳥開講科目・水曜日分)									人・環境支援技術 II	1		45				
教 育 科 目	教養科目					30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		人・環境支援論	1		30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	哲学と思考		2	30						人・環境支援論: 対人関係技法	1		15				
	現代の歴史		2	30						人・環境支援論: 管理/教育	1		30				
	生物と人間社会		2	30						医療環境と看護 △	1	1	15				
教 育 科 目	哲学と人生		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		人・環境支援看護学実習 I	1		45		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	都市と環境		2	30						人・環境支援看護学実習 II	2		90				
	自然科学の歴史		2	30						療養支援看護学概論	3		45				
	数理学のトピックス		2	30						病態看護支援論	2		60				
教 育 科 目	比較文学の世界		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		療養支援論	2		60		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	文学と社会		2	30						療養支援論: 急性	2		60				
	現代社会と倫理		2	30						療養支援論: 慢性	2		60				
	自然科学への招待		2	30						感染看護論 △	1	15					
教 育 科 目	現代日本経済入門		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		療養支援看護学基本実習	5		225		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	自然における右と左の関係		2	30						療養支援看護学応用実習 ※	4	4	180				
	憲法		2	30						生活支援看護学概論	3		45				
	歴史学の現在		2	30						生活支援論	2		60				
教 育 科 目	世界の文学		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		生活支援論: 老年 I	1		30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	社会と思想		2	30						生活支援論: 精神 I	1		30				
	ジェンダー論への招待		2	30						生活支援論: 地域 I	1		30				
	数学の手法		2	30						生活支援論: 地域 II	2		60				
教 育 科 目	現代社会と障害 A		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		生活支援論: 在宅	1		30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	人間学入門		2	30						生活支援論: 老年 II	1		30				
	アイデンティティと文化		2	30						生活支援論: 精神 II	1		30				
	現代文化論		2	30						災害支援看護論 △	1	15					
教 育 科 目	法と社会		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		生活支援看護学基本実習	5		225		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	現代社会と障害 B		2	30						生活支援看護学応用実習 I ◎	4	4	180				
	文学の基礎		2	30						生活支援看護学応用実習 II ◎	4	4	180				
	現代の地域を考える		2	30						家族支援看護学概論	3		45				
教 育 科 目	暮らしと法律		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		家族看護論	1		30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	人権問題論 A		2	30						家族支援論: 母性	2		60				
	変容する社会と社会学		2	30						家族支援論: 小児	2		60				
	情報とは何か		2	30						セクシュアリティと看護 △	1	15					
教 育 科 目	国際文化の視点		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		家族支援看護学基本実習	3		135		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	総合教養科目「環境と人間」		2	30						家族支援看護学応用実習 ※	4	4	180				
	宗教の諸相		2	30						基礎助産学	1		15				
	現代のドイツ		2	30						助産科目 助産診断技術学 I	1		30				
教 育 科 目	暮らしと経済		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		助産科目 助産診断技術学 II	3		90		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	美術学入門		2	30						助産管理	1	15					
	物質と人間		2	30						助産学実習	7		315				
	スポーツと臨床心理		2	30						研究方法論 △	1		30				
教 育 科 目	からだの科学		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		国際保健 △	1	15		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)			
	問題群としての社会		2	30						タミナルケア △	1	15					
	ゼミナール問題群としての社会		2	30						人権と医療 △	1	15					
	ゼミナール日本文学の世界		2	30						出産・子育てと文化 △	1	30					
教 育 科 目	ゼミナール現代文化論		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目		看護援助論 (eラーニング科目)	1		15		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	ゼミナールアイデンティティと文化		2	30						総合研究	2		90				
	ゼミナール哲学と思考		2	30													
	ゼミナール数理学		2	30													
教 育 科 目	ゼミナール鑑賞と研究		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目						70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)			
	外国語科目 (英語を除く)																
	ドイツ語基礎 I		2	30													
	ドイツ語基礎 II		2	30													
教 育 科 目	フランス語基礎 I		2	30		30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)	中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目	専 門 支 持 科 目						70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)			
	フランス語基礎 II		2	30													

1 年次中百舌鳥開講科目・水曜日分以外にも他の科目を修得すれば単位認定できる。
(自由選択枠等)

[専門科目の選択科目]

※印から 4 単位を修得すること。

◎印から 4 単位を修得すること。

△印から 3 単位以上を修得すること。

2) 看護学研究科

看護学研究科では、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(規程第61号第3条)に基づき、専攻領域及び分野を定めている。

博士前期課程は、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目的とし、「人・環境支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の4つの専門領域に修士論文コース、「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の3つの専門領域に11分野の専門看護師(CNS)コースを設置している。さらに、職業を有している等の事情により、標準修学年限(博士前期課程2年)の大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修できる長期履修制度を設置している。教育課程の編成は、教育研究能力を修める「基盤教育科目」と、専門的な実践能力を習得する「専門教育科目」からなる(資料5-1-2-1)。「基盤教育科目」は、「理論看護学」「看護学研究法」等の必修科目、「調査研究処理法」「医療社会福祉学」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・実習・研究で構成している。

博士後期課程は、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を極め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目的とし、「生活支援看護学」「療養支援看護学」の2つの専門領域を設置している。教育課程の編成は、「基盤教育科目」と「専門教育科目」からなり(資料5-1-2-2)、「基盤教育科目」は「看護学研究方法論」の必修科目、「生体科学研究方法論」「健康科学研究方法論」「看護理論開発方法論」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・研究で構成している。

資料 5-1-2-1 看護学研究科 博士前期課程 標準履修課程表

区 分	領 域	分 野	授 業 科 目	修論コース		CNSコース		授業時間数			学年進行				
				単位数		単位数		講義	演習	実習	1年次		2年次		
				必修	選択	必修	選択				前期	後期	前期	後期	
基 盤 教 育			理論看護学	2		2		30			○				
			看護学研究法	2		2		30			○				
			看護学研究法演習		1		1		30				○		
			調査研究処理法Ⅰ		2		2		30			○			
			調査研究処理法Ⅱ		2		2		30			○			
			医療社会福祉学		2		2		30			○			
			臨床生理心理学		2		2		30				○		
			フィジカルアセスメント		2		2		30				○		
			生体情報論		2		2		30				○		
			代謝病態生理学		2		2		30				○		
			生体感染防御論		2		2		30				○		
			臨床遺伝学		2		2		30				○		
			薬物作用学		2		2		30				○		
			看護倫理学		2		2		30				○		
			看護政策学		1		1		15				○		
			家族看護学		2		2		30				○		
			経営管理論		2		2		30				○		
			コンサルテーション論		1		1		15				○		
			*共通特論Ⅰ(腫瘍病態生物学)				2		30				○		
			*共通特論Ⅱ(臨床腫瘍学総論)				2		30				○		
*共通特論Ⅲ(臨床腫瘍学各論)				2		30				○					
人・環境支援看護学			看護技術学特論Ⅰ		2			30			○				
			看護技術学特論Ⅱ		2			30			○				
			看護技術学演習Ⅰ		2				60				○		
			看護技術学演習Ⅱ		2				60				○		
			看護技術学特別研究		6					180				○	○
			看護情報学特論Ⅰ		2			30				○			
			看護情報学特論Ⅱ		2			30				○			
			看護情報学演習Ⅰ		2				60				○		
			看護情報学演習Ⅱ		2				60				○		
			看護情報学特別研究		6					180				○	○
			看護管理学特論Ⅰ		2			30				○			
			看護管理学特論Ⅱ		2			30				○			
			看護管理学演習Ⅰ		2				60				○		
			看護管理学演習Ⅱ		2				60				○		
			看護管理学特別研究		6					180				○	○
			看護教育学特論Ⅰ		2			30				○			
			看護教育学特論Ⅱ		2			30				○			
			看護教育学演習Ⅰ		2				60				○		
			看護教育学演習Ⅱ		2				60				○		
			看護教育学特別研究		6					180				○	○
母性看護学			母性看護学特論		2		2	30			○				
			母性看護学援助特論		2		2	30				○			
			リプロダクティブヘルスケア演習ⅠA		2			60				○			
			リプロダクティブヘルスケア演習ⅠB		2			60				○			
			リプロダクティブヘルスケア演習ⅡA		2			60				○			
			リプロダクティブヘルスケア演習ⅡB		2			60				○			
			周産期看護演習ⅠA		2			60				○			
			周産期看護演習ⅠB		2			60				○			
			周産期看護演習ⅡA		2			60				○			
			周産期看護演習ⅡB		2			60				○			
			母性看護学実習		6				270				○	○	
			周産期看護実習		6				270				○	○	
			母性看護学課題研究		2				60				○	○	
			母性看護学特別研究		6				180				○	○	
			家族看護学特論		2		2	30				○			
			家族看護学援助特論Ⅰ		2		2	30				○			
			家族看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○			
			家族看護学演習ⅠA		2			60				○			
			家族看護学演習ⅠB		2			60				○			
			家族看護学演習ⅡA		2			60				○			
家族看護学演習ⅡB		2			60				○						
家族看護学実習		6				270				○	○				
家族看護学課題研究		2				60				○	○				
家族看護学特別研究		6				180				○	○				
小児看護学			小児看護学特論		2		2	30			○				
			小児看護学援助特論		2		2	30				○			
			小児看護学演習ⅠA		2			60				○			
			小児看護学演習ⅠB		2			60				○			
			小児看護学演習ⅡA		2			60				○			
			小児看護学演習ⅡB		2			60				○			
			小児看護学実習		6				270				○	○	
			小児看護学課題研究		2				60				○	○	
			小児看護学特別研究		6				180				○	○	

【*】付き科目については、がんプロフェッショナル養成プランがん専門看護師養成コースのため、がん看護分野、CNSコース以外の者は受講を申請することができない。

区 分	領 域	分 野	授 業 科 目	修論コース		CNSコース		授業時間数			学年進行				
				単位数		単位数		講義	演習	実習	1年次		2年次		
				必修	選択	必修	選択				前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育			地域看護学特論		2		2	30					○		
			地域看護学援助特論		2		2	30					○		
			地域看護学演習ⅠA		2			60					○		
			地域看護学演習ⅠB		2			60					○		
			地域看護学演習ⅡA		2			60					○		
			地域看護学演習ⅡB		2			60					○		
			地域看護学実習		6				270					○	○
			地域看護学課題研究		2				60					○	○
			地域看護学特別研究		6				180					○	○
			精神看護学特論Ⅰ		2		2	30					○		
			精神看護学特論Ⅱ		2		2	30					○		
			精神看護学援助特論Ⅰ		2		2	30					○		
			精神看護学援助特論Ⅱ		2		2	30					○		
			精神看護学演習ⅠA		2			60					○		
			精神看護学演習ⅠB		2			60					○		
			精神看護学演習ⅡA		2			60					○		
			精神看護学演習ⅡB		2			60					○		
			精神看護学実習		6				270					○	○
			精神看護学課題研究		2				60					○	○
			精神看護学特別研究		6				180					○	○
老年看護学特論		2		2	30					○					
老年看護学援助特論		2		2	30					○					
老年看護学演習ⅠA		2			60					○					
老年看護学演習ⅠB		2			60					○					
老年看護学演習ⅡA		2			60					○					
老年看護学演習ⅡB		2			60					○					
老年看護学実習		6				405					○	○			
老年看護学課題研究		2				60					○	○			
老年看護学特別研究		6				180					○	○			
在宅看護学特論		2		2	30					○					
在宅看護学援助特論Ⅰ		2		2	30					○					
在宅看護学援助特論Ⅱ		2		2	30					○					
在宅看護学援助特論Ⅲ		2		2	30					○					
在宅看護学演習ⅠA		2			60					○					
在宅看護学演習ⅠB		2			60					○					
在宅看護学演習ⅡA		2			60					○					
在宅看護学演習ⅡB		2			60					○					
在宅看護学実習		6				270					○	○			
在宅看護学課題研究		2				60					○	○			
在宅看護学特別研究		6				180					○	○			
急性看護学特論		2		2	30					○					
急性看護学援助特論		2		2	30					○					
急性看護学演習ⅠA		2			60					○					
急性看護学演習ⅠB		2			60					○					
急性看護学演習ⅡA		2			60					○					
急性看護学演習ⅡB		2			60					○					
急性看護学実習		6				270					○	○			
急性看護学課題研究		2				60					○	○			
急性看護学特別研究		6				180					○	○			
慢性看護学特論		2		2	30					○					
慢性看護学援助特論		2		2	30					○					
慢性看護学演習ⅠA		2			60					○					
慢性看護学演習ⅠB		2			60					○					
慢性看護学演習ⅡA		2			60					○					
慢性看護学演習ⅡB		2			60					○					
慢性看護学実習		6				270					○	○			
慢性看護学課題研究		2				60					○	○			
慢性看護学特別研究		6				180					○	○			
がん看護学特論		2		2	30										

資料 5-1-2-2 看護学研究科 博士後期課程 標準履修課程表

区分	領域	授業科目	単位数		授業時間数		1年次		2年次		3年次	
			必修	選択	講義	演習	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基盤教育		看護学研究方法論	2	1	30	30	○					
		看護学研究方法論演習						○				
		生体科学研究方法論					1	15	○			
		健康科学研究方法論Ⅰ					1	15		○		
		健康科学研究方法論Ⅱ					1	15	○			
		健康科学研究方法論Ⅲ					1	15	○			
		看護理論開発方法論					1	15		○		
専門教育	生活支援看護学	看護技術・情報学特論		2	30		○					
		看護技術・情報学演習		2		60		○				
		看護管理・教育学特論		2	30		○					
		看護管理・教育学演習		2		60		○				
		母子健康看護学特論		2	30		○					
		母子健康看護学演習		2		60		○				
		家族健康看護学特論		2	30		○					
		家族健康看護学演習		2		60		○				
	地域・精神看護学特論		2	30		○						
	地域・精神看護学演習		2		60		○					
	在宅・老年看護学特論		2	30		○						
	在宅・老年看護学演習		2		60		○					
		生活支援看護学特別研究		6		270			○	○	○	
	療養支援看護学		急性療養看護学特論		2	30		○				
急性療養看護学演習				2		60		○				
慢性療養看護学特論				2	30		○					
慢性療養看護学演習				2		60		○				
がん療養看護学特論				2	30		○					
がん療養看護学演習				2		60		○				
感染療養看護学特論				2	30		○					
感染療養看護学演習		2		60		○						
	療養支援看護学特別研究		6		270			○	○	○		

2. 教育方法

1) 看護学部

授業形態は、学習効果を上げるために、「教養科目・基盤科目」「専門支持科目」は講義・演習、「専門科目」は講義・演習・実習で構成しており、授業時間の内訳は、講義 40.2%、演習 27.0%、実習 32.8%（平成 21 年度入学生からは講義 28.1%、演習 40.6%、実習 31.3%）としている。具体的な授業形態および指導形態の例として、「保健情報学」ではコンピュータを使用して情報処理の演習を行い、「形態機能学Ⅰ、Ⅱ」（平成 21 年度入学生からは「解剖生理学Ⅰ、Ⅱ」）ではビジュランを活用して授業を行っている。各領域の「支援論」などにおいては、少人数による対話・討論型授業を行っている。臨地実習では、病院、老人保健施設、保健所などの様々なフィールド型実習を行っている。さらに、平成 17 年度に採択された文部科学省による現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム「看護実践能力の獲得を支援する e-ラーニング」の教材を授業や実習に活用し、学習指導法を工夫している。

教育の目的に応じた成績評価基準は、大阪府立大学履修規程（規程第 78 号第 12 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax9400148001.html）、各科目の成績評価基準は、学生必携の授業科目概要に記載している。授業科目および臨地実習の成績評価および単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施している。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から学生グループ学部教務担当または当該科目担当教員に、口頭もしくは書面で行われている。卒業要件基準は、大阪府立大学看護学部規程に則り（規程第 54 号第 8 条）、卒業要件 128 単位、必修単位 93 単位（平成 21 年度入学生からは卒業要件 128 単位、必修単位 107 単位）としている。これは、学士課程の卒業者に、看護師および保健師の国家試験受験資格を与えるためである。その他に、助産師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、13 単位（平成 21 年度入学生からは 14 単位）の助産科目を開設している。入学前の既修得単位の認定は、大阪府立大学学則（規程第 47 号第 16 条）に則り、新入学者に対しては、本学入学前に他大学等で修得した科目は個別に審査し、卒業要件単位に認定している。2 年次編入の教養科目は生命倫理学以外の教養科目 28 単位を上限として個別に審査し、卒業要件単位に認定している。卒業認定は、卒業要件に照らし合わせて教授会でを行っている。

2) 看護学研究科

博士前期課程の授業形態および指導形態は、修士論文コースでは講義・演習、専門看護師(CNS)コースでは講義・演習・実習で構成され、少人数教育を基本としている。講義では質疑応答を含めた対話・討論型授業、演習では情報機器の活用や実験、演習及び実習ではフィールド型授業などを行っている。さらに、学部の授業におけるティーチングアシスタント(TA)としての活動を通して、教育能力を高められるようにしている。

研究指導は、博士前期課程、博士後期課程ともに複数指導教員体制のもとで行い、主指導教員はテーマの選定及び研究方法の検討から論文作成までのすべてのプロセスを直接指導している。副指導教員は主指導教員と緊密な連携をとりつつ、指導にあたっている。論文審査のプロセスとして、博士前期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。修士論文・課題研究論文の審査は、研究科会議で選出された主査 1 名と副査 2 名以上で行い、研究科会議で最終承認を行う。博士後期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。2 年次には中間報告を行い、教員および他の大学院生の意見を広く求め、研究能力を育成する場としている。博士論文の審査は、研究科会議の全教員で指導する予備審査、研究科会議で選出された主査 1 名と副査 2 名以上で行う本審査を経て、研究科会議で最終承認を行う。

修了要件及び成績評価基準は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程（規程第 61 号第 10 条、第 15 条）に則り、

成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施し、修了認定は、研究科会議の議を経て学長が行っている。成績評価に関する学生からの申し立ては、学生個人から当該科目担当教員または学生グループ教務担当へ行われている。

3. その他

6 大学連携オンコロジーチーム養成プラン

—近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国・公・私立大学連携プロジェクト—

大阪府立大学大学院看護学研究科は、近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学の医学・看護学・薬学系大学院研究科とともに、平成19年度に文部科学省に「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン—近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国・公・私立大学連携プロジェクト—」を共同申請し、採択された。本プロジェクトでは、6大学連携オンコロジーチーム養成プランに参画する看護学研究科・医学研究科・薬学研究科に属する看護師・医師・薬剤師などを対象に、共通特論I「腫瘍病態生物学」、共通特論II「臨床腫瘍学総論」、共通特論III「臨床腫瘍学各論」等を開講している。場所は、受講者が一堂に集まりやすい大阪市立大学医学部を使用している。

がんプロフェッショナル養成プランの本学研究科における一貫企画として、事例検討会を開催している。大学院専門看護師コース修了生の実践事例、コンサルテーション事例、コーディネーション事例、倫理調整事例などを検討することで、専門看護師認定審査に向けて適切な実践成果を導き出せる能力の発展、および実践報告書の作成ができることを目的としたものである。大学院を修了後、がん看護専門看護師として活動を行うにあたり、キャリア開発や専門的な看護実践の遂行、専門看護師としての役割開発について講演を行い、実践の場でがん看護専門看護師として役割遂行するための能力の発展を目指している。開催は月一回程度で、一回約2時間半、参加者は教員(教授、准教授、講師、助教)、大学院後期課程学生、大学院前期課程がん看護専門看護師コース修了生および在学生である。

第6章 学生支援

1. 学習支援

1) 看護学部

看護学部では、「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」、「専門科目」に属する科目群を有機的に連携させて教育することにより、学習効果を上げることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、卒業認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。また、選考に基づき助産科目を履修することができ、その説明を入学時と3年次に実施している。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。国家試験対策としては、教員のアドバイスのもと4年次の学生の代表が中心となって、国家試験の模擬試験を年4回（保健師1回、助産師0回、看護師3回）実施している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室、自習室等の施設整備に加え、携帯型のマルチメディア端末を用いたデジタル教材などを整備している。羽曳野図書センターは、平日9時～20時、土曜日10時30分～19時に開館し、AVブース・AVルーム等を使用することができる。さらに、看護に関する蔵書は日本でもトップクラスであり、他大学図書館との相互利用サービス、データベース・サービス等も充実している。図書館のガイダンスは、新入生および新採用教員へ年度当初に行うとともに、利用についても案内・周知している。情報科学演習室・視聴覚室は、基本的には授業時間を除く平日9時～20時に開放し、パソコンは情報科学演習室50台、視聴覚室34台を整備している。看護技術習得のためには、学内での各専門分野に応じた実習室を整備している。

学生相談を含む学生生活全般への支援は、1～3年次生10～12名に1～2名の教員、4年次生には総合研究を担当する教員が、アドバイザーとして履修上・生活上の問題について継続的に支援を行うアドバイザー制度がある。アドバイザーは、交流会・ミーティングの開催、メール配信や電話による状況把握、面接・個人指導の他、単位の実質化を推進するための指導等を行っている（資料6-1-1）。

資料6-1-1 アドバイザーグループ活動の状況

項目	平成20年度	平成21年度	平成22年度
交流会・ミーティングの開催	21G (のべ32回)	19G (のべ31回)	24G (のべ35回)
メール配信による状況把握	28G	28G	28G
電話による状況把握	3G	4G	4G
面接・個人指導	27G	24G	28G
名簿・連絡先等の配布	18G	18G	18G
期末試験結果の把握	19G	22G	23G
家族への連絡・家族との相談	3G	1G	6G
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・入院中の学生への見舞い 1G ・同級生逝去による同学年生への対応(実習状況把握含む) 3G 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 1G ・学外での娯楽活動 4G ・推薦状の記載 1G ・実習担当教員との情報交換 2G 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 1G ・学外での娯楽活動 2G ・推薦状の記載 1G ・NZ、東北地震の安否確認 3G ・養護教諭資格取得の集中講義の連絡 3G ・感染症での入院対応 1G ・外国留学の推薦状の作成 1G
活動なし(4月当初のオリエンテーション期間の活動のみ)	0G	6G	5G

羽曳野キャンパス学内団体・サークルとしては、体育系12、文化系13の計25団体が活動している。学内団体・サークルは、自治会が交付する活動資金により活動し、教員が必ず顧問として関わるほか、教授会がサークルの新規申請を承認する前に、学生委員会で活動内容の妥当性について検討している。平成22年度は、文科系2団体、体育系1団体の新規登録が承認されている。サークル室は、図書厚生棟3階に整備しており、学内で施設を利用する場合は所定の書式で申請することにより、ほぼ全面的な施設利用が認められている。自治会活動に対する支援としては、集会室を図書厚生棟3階に整備し、活動資金は入学時に徴収される自治会費に加えて、後援会からの交付金に基づいている。

また、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するために、「学生提案箱・BOX21」を学生の目につきやすい事務所入口に設置し、投函された意見は、月1回学生グループ長が開封している。さらに、WEB学生サービスセンター(WEBSC)では、WEBSCサイトに「Web提案箱」を設置し、提案した学生に当日中に返信するとともに、寄せられた意見・提案および対応内容をWEBSCサイトで紹介している。平成22年度の学生提案箱とWeb提案箱の意見は10件である。その他、随時アドバイザーから、学生委員長、教務委員長、学部長等へ、学生のニーズに関する情報を報告している。

2) 看護学研究科

看護学研究科では「基盤教育科目」と「専門教育科目」に属する科目群を有機的に連携させて教育することにより、学習効果をあげることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型

化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、修了認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。さらに、学生が学習相談のために来室或いはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室のほか、看護学研究科大学院自習室、17台のパソコンを設置した大学院棟内情報処理室を整備している。

なお、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、看護学部同様である。

2. 生活支援

看護学部および看護学研究科では、学生の生活や就職、経済面での援助に関する支援のほか、特別な配慮が必要な学生への支援やハラスメントに関する支援を行っている。

学生の健康相談は、保健室に配置された看護師1名が常勤で対応している。さらに、外科、産婦人科、精神科心療内科の3名の学校医、内科の産業医1名との契約を結び、学生の健康管理と受診対応の体制をとっている。心理的問題に対応できる体制として羽曳野キャンパスカウンセリングルームでは、専門のカウンセラーによる対面相談のほか、WEB学生サービスセンター（WEBSC）所属の専門カウンセラーによるテレビ電話を用いた電話相談で対応している。平成22年度の年間相談件数は、対面相談19件、電話相談0件である。

学士課程の進路相談に関しては、年間5回の就職ガイダンスを計画的に実施している。さらに、合同病院説明会の開催、4年次の希望学生を対象にした就職の模擬面接等を実施している。平成22年度の合同病院説明会の参加施設は48施設、模擬面接の参加者は39名である。

奨学金制度および授業料減免は、学生ガイダンス、学生生活の手引、掲示板やパンフレットにおいて周知し、より詳細な情報を必要とする学生からの問い合わせや相談は、学生グループにおいて対応している。平成22年度の奨学金の応募は、学部46名、大学院25名の合計71名であり、日本学生支援機構奨学金では、第一種（無利子）、第二種（有利子）合わせて37名（学部24名、大学院13名）が採用された。

外国人留学生には、奨学金制度や授業料減免制度が外国人留学生枠で設けられている。アドバイザー制度により、外国人留学生寮の紹介・調整、アルバイトや書類手続き時のアドバイスなど、生活の支援体制を整備している。さらに、教員、先輩学生各1名で構成するチューター制度では、外国人留学生に対する学習支援体制も整備している。担当する先輩学生（チューター）は、学生委員会により選出され、一定の費用が支払われる。平成22年度の外国人留学生数は0名である。その他、特別な支援を行うことが必要と考えられる者は、現在のところ在学习していない。

各種ハラスメントに関する支援は、公立大学法人大阪府立大学ハラスメントの防止等に関する規程（規程第29号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax9400060001.html）に則り、相談・助言体制を整備し、機能している。

なお、生活支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、学習支援と同様であり、学生の実情とニーズを把握したうえで、対処方法を回答している。

第7章 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

1. 評価

1) 学生による評価

(1) 授業評価アンケートによる学生の評価

学生による授業評価および学習環境や履修指導についての意見聴取および同データの公開は、Webによるポータルを用いて年2回定期的に実施している。授業評価や意見聴取した内容は、今後の授業方法の検討に活用されることを意図して担当科目の教員にフィードバックしている。平成21年度、看護学部の授業評価アンケート実施科目のリストを作成した。

授業評価アンケートの学生への周知においては、回答期間中に学生に対して回答を求める呼びかけを行ったり、アンケートへの回答啓発ポスターを作成し掲示を増やした。前期では、紙媒体によるアンケートを実施せず、Web回答率は1.76%であった。後期では、携帯電話によるアンケートが試行され、1科目において実施した。後期アンケートのWeb回答率は0.84%であった。

このように授業評価アンケートの回答率は低かった。回答方法について、ポータル入力と、試行的に携帯電話を使用したアンケートが実施されている。今後は、全学的な検討に従って進めていく必要がある。看護学部では、学生がポータル入力をしやすい環境整備を行うこと、また自由記載欄への記入を勧めると共に、それに対するコメントを教員が回答していくことで、学生のアンケート回答率をあげていくことが必要である。

(2) 学生による臨地実習評価

臨地実習については、実習科目毎に学生による評価を実施しており、その結果を担当教員はもとより、臨地実習連絡会などの機会に実習指導者にもフィードバックすることで、実習内容や実習環境の改善に役立っている。

評価項目毎に評価結果(平均)をみると、「授業で学んだ内容が実習を通してより深く理解できた。」と回答した者は93.7%、「対象者への理解を深め、その対象者に合う看護が展開できた。」と回答した者は87.4%であった。臨地実習の総合目的である「さまざまな健康レベル・健康障害にある人々に対して、既習の知識・技術・態度を実際の場面に適用し、理論と実践を統合して看護活動が展開できる能力を養う。」が概ね達成できていると考えられる。また、「教員は学生の必要に応じたアドバイス、指導、説明を行った。」と回答した者は89.3%、「指導者から適切な助言が得られた。」と回答した者は93.5%で、概ね学生の学習ニーズに応えられる実習体制であったと考える。

2) 教員相互による評価

本学部では、教員相互によるピア評価を実施している。教員間のピア評価において評価された教員は、改善シートに今後改善すべき内容を記載し、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会に提出するとともに、教員は、視聴覚機器の活用、教材の工夫、授業のプリントの作成法、授業時の感想カードの提出法など、授業改善に努めている。

平成20年度において、ピア評価の対象を教授から講師に加え、助教も含めることを決定した。今年度は、平成20年度に採用された講師以上の教員と、助教のピア評価の要領に基づいて助教のピア評価を実施した。平成20年度の新採用教員の3名、助教14名が対象であった。ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員がピア評

価担当委員として、ピア評価の実施、フィードバック日の設定、授業評価改善票の回収を行った。従来、教員相互によるピア評価では、学部における開講科目を対象に実施してきた。学部同様に看護学研究科の授業評価について検討し、平成22年度から、学部と看護学研究科の講義および演習科目を対象にすることを決定した。

今年度のピア評価で、教授から助教までのピア評価が一通り終了することから、今後の授業評価のあり方を検討した。現行のピア評価では、4～5年に1回、ピア評価を受けることになる。そこで毎年、何らかの形で授業評価に関われるようにするため、ピア評価は新採用教員と希望者を対象にすること、ピア授業参観を併用することを決定した。具体的なピア授業参観の方法として、ピア参観実施要項、ピア授業参観実施手順を作成した。平成22年度は、実施手順に基づきピア評価とともにピア参観を実施した。

3) 教員による自己点検評価

本学では、平成19年度から教員による教員活動自己点検報告を毎年実施している。本学部独自の評価項目として、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学運営に関して、「非常に積極的に行った」から「行わなかった」まで4段階で自己評価している。

平成22年度在籍の教員61名中、病欠である教員1名を除き60名が提出した。教員活動の授業活動については、学部が掲げる教育目的のもと個々の授業目標に従った授業展開を、ほとんどの教員が非常に積極的または積極的に行っていた。教育改善活動についても、授業内容、教材、教授技術等の改善もほとんどの教員が非常に積極的または積極的に行っていた。研究指導活動においては、学位取得に向けた指導を約半数の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。研究活動に関して、学術論文等による研究発表活動は、43%の教員が非常に積極的または積極的に行い、23%の教員が普通に行っており、学会等における発表活動は、62%の教員が非常に積極的または積極的に行い、20%の教員が普通に行っていた。競争的資金獲得のため代表者として積極的に申請または申請した教員は60%であった。新規申請しなかったものは、科研費が採択されているため、継続申請となっているものが多かったためである。競争的資金に関して、申請数は平成22年度に減少しているが、獲得率は高い。科研費の新規、継続の採択率は72%であり、今後は質の高い研究活動が実施されることが期待される。社会貢献活動に関して、大阪府等の委員会・看護協会等の職能団体への参画は、約半数の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。地域に密着した学習支援活動は、ほとんどの教員が非常に積極的または積極的に行っていた。大学運営活動に関して、各委員会活動は、ほぼ全教員が非常に積極的または積極的に行っていた。特に教授は、非常に積極的に活動していた。大半の看護学部教員が委員会活動に携わり、責務を果たし大学運営に尽力している結果が示された。

4) 卒業生による評価

本学部では、本学卒業生を対象としたアンケート調査を実施し、主として卒業学年を対象とした就職ガイダンスと合同病院説明会時には、保健師、助産師、看護師として就職している卒業生から、教育に関する意見を聴取している。

看護学部卒業生からは、良かった点として看護学に関する豊富な知識を習得できたこと、エビデンスに基づく看護の重要性を学んだこと、看護研究や臨地実習における教育的なサポート体制などが挙げられ、一方改善すべき点として実践的な看護技術教育に関すること、実習スケジュールに関することが挙げられていた。また卒業後の継続教育の充実について要望が出された。また看護学研究科修了生からは、良かった点として看護倫理や研究方法の習得ができたこと、広い視野で専門性の追求・分析力の向上ができたことがあげられ、要望としてはコンサルテーション教育の充実、大学院修了後の研究サポート体制の充実について意見が出された。

2. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

看護学部におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)は、FD委員会を設置し取り組んでいる。FD委員会の主な活動としては、学生や教員のニーズや、社会の変化に対応した内容を検討して取り上げている。平成21年度の実施日及びテーマ、参加人数は、資料7-2 に示した。

FDによるセミナーは、平成22年度大阪府立大学として5回、看護学部独自のものとして3回開催された。その内容は資料7-2 に示されているように教育改善に関するものであった。

資料7-2 平成22年度 FDセミナー

<p>平成22年度 府大セミナー</p>	<p>第1回FDセミナー 第1回カリキュラム策定のための勉強会 テーマ：「初年次少人数ゼミナールー学士課程教育における初年次少人数セミナーの位置づけー」 講 師：東北大学・羽田貴史氏 日 時：平成22年 6月 21日 出席人数：7名</p> <p>第2回FDセミナー 第2回カリキュラム策定のための勉強会 テーマ：「正課教育で学生のキャリアをどう関連づけ、育てるか」 講 師：京都大学・溝上慎一氏 日 時：平成22年 9月 1日 出席人数：5名</p> <p>新任教員FDセミナー 日時：平成22年9月9日 講師：高等教育開発センター・高橋 哲也氏 他 出席人数：5名</p> <p>『東北大学基礎ゼミ・FD ワークショップ』参加報告会 1. 本学の「初年次ゼミナール」について 2. 『東北大学基礎ゼミ・FD ワークショップ』の報告 日 時：平成22年 12月 2日 出席人数：6名</p> <p>教育改革シンポジウム 「学生と共に考える府大の教育」 第1部：府大の教育について、学生4名による意見発表 第2部：パネルディスカッション 日 時：平成22年 12月 15日 出席人数：2名</p>
<p>平成22年度 看護学部セミナー</p>	<p>第1回大阪府立大学看護学部FDセミナー テーマ：アサーティブネスーコミュニケーションスキルアップ研修ー 日 時：平成22年8月26日 講 師：近畿大学・堀田美保氏 出席人数：51名</p>

	<p>第2回大阪府立大学看護学部FDセミナー テーマ：第1回教員研究紹介セミナー及び在外研究報告会 報告者：青山ヒフミ氏、垣本和宏氏、細田泰子氏 日時：平成23年2月3日 出席人数：52名</p> <p>第3回大阪府立大学看護学部FDセミナー テーマ：看護学部学生のカウンセリングから学ぶ 講師：林真智子氏 日時：平成23年3月10日 出席人数：25名</p>
--	--

第8章 研究活動

1. 研究体制及び支援

研究の実施体制は、健康科学と看護学4領域の計5領域から構成されている。同組織への研究支援組織としては、羽曳野キャンパスの場合、総務課を中心とした事務職員および文献等の検索や収集のために羽曳野図書センターの司書などから、総合的・機能的に支援を受けている。

研究推進については、産学官連携機構から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターにおける地域社会との連携等が、組織的に行われている。コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、研究助成に関する情報提供など支援を行っている。外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には経営企画課経理グループによる申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金の配分は、主任教授会において原案を作成し、教授会および研究科会議で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、看護学部長研究助成、文部科学省の研究助成補助金が採択されなかった演題の評価がAランクに対する学長補助、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究助成(資料8-2-2)、研究者の育成に関する施策(新人教員に0.5~1.5倍の研究費が上乘せ)、共同研究の奨励研究の推進などがある。

看護学部および看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、広報委員会および紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページおよび年1回発行する紀要で公開している。研究活動の状況を把握する取組として、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは一部教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。さらに、各教員は、教員活動自己点検・評価報告書を提出し、自己評価を行っている。これらは、部局評価・企画実施委員会が、看護学部教員全体の評価をまとめて報告している。

看護学部における研究活動の質の向上に関する取組としては、研究倫理委員会および動物実験委員会がある。研究倫理委員会では、教員および大学院生・学部学生の研究のうち、人を対象とした場合には学外の有識者を含む委員会において、研究倫理の審査で承認したもののだけが研究を実施できるようになっている。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、その審査を経たもののみが実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

2. 研究実績

看護学部および看護学研究科の研究活動の実施状況と研究成果は、「資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧」に示した。重複した論文・発表を除くと、学術論文の発表は41件、学会発表件数は106件であった。

競争的研究資金の申請・採択状況を資料8-2-1に示した。科学研究費補助金の新規申請は、27件であった。看護学部が独自に実施している研究助成として、療養学習支援センター研究・活動助成(資料8-2-2)、共同研究助成(資料8-2-3)がある。

特に療養学習支援センターでの研究活動状況は、療養学習支援センター年報第7巻に記述し、公表している。

資料 8-2-1 平成 22 年度 看護学部補助金の申請・採択状況

研究活動			新規申請件数	採択件数	継続件数	合計金額(円)
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (A)	代表	0	0	1	13,390,000
	基盤研究 (B)	代表	1	1	1	5,850,000
		分担	—	1	2	910,000
	基盤研究 (C)	代表	14	10	9	27,040,000
		分担	—	6	8	1,482,000
	萌芽的研究	代表	5	1	0	1,000,000
		分担	—	1	0	50,000
	若手研究 (B)	代表	6	1	7	8,935,275
分担		—	0	0	0	
奨励研究	代表	0	0	0	0	
その他 (若手研究スタートアップ 含む)	代表	1	1	1	2,340,000	
厚生科学研究費補助金	代表	—	0	0	0	
財団等の研究助成による研究	代表	—	3	3	5,269,999	
企業等による教育研究奨励費	代表	—	0	0	0	
企業等による受託研究費	代表	—	1	0	2,600,000	
大学独自の助成による研究	代表	—	0	0	0	
その他	代表	—	0	0	0	

資料 8-2-2 療養学習支援センター研究・活動助成一覧

No	区分	代表者	研究課題・活動名	助成額 (円)
1	研究助成	牧野裕子	在宅高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」の評価	765,000
2		榎木野裕美	前向き子育てプログラム(トリプルP)の実践とその評価	492,000
3		古山美穂	府下高等学校における生と性教育プログラムの実践	130,000
1	活動助成	岡本双美子	家族への看護を考える会—リソースナースとの取り組み	126,000
2		齋野貴史	地域住民への感染予防策の普及	156,000
合 計				1,669,000

資料 8-2-3 共同研究助成

代表者	研究課題・活動名	助成額
中山美由紀	生活習慣に関連した健康障害を持つ子供と家族への看護の検討	350,000 円

競争的資金の獲得状況として、科学研究費補助金については、採択件数は51件（60,997,275円）となっている。科学研究費補助金交付者一覧を資料8-2-4に示した。その他、財団による助成などがある。競争的資金の獲得状況に関して、採択件数は平成18年度以降漸増しており、それに伴い金額も増加している。特に平成19年度に急増し、その後の獲得件数は維持している。

資料8-2-4 平成22年度科学研究費補助金交付者一覧

(研究代表者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(A)(一般)	中村 裕美子	13,390,000	Eラーニングによる看護職の再就職支援研修プログラムの開発と評価
基盤研究(B)(一般)	中山 美由紀	4,030,000	新生児集中治療を受けている子どもの家族に対する早期介入モデルの開発と評価
基盤研究(B)(一般)	高見沢 恵美子	1,820,000	急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入
基盤研究(C)(一般)	旗持 知恵子	650,000	虚血性心疾患患者のセルフモニタリング実践の効果と影響要因-非実践者との比較から-
基盤研究(C)(一般)	榎木野 裕美	650,000	親の主體的な医療参画をめざした親・医療者協働プレバレーションシステムの開発と実践
基盤研究(C)(一般)	上野 昌江	1,430,000	児童虐待発生予防における養育支援が必要な子どもと家族の見極め指標と支援方略の開発
基盤研究(C)(一般)	長畑 多代	650,000	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職への教育プログラムの開発
基盤研究(C)(一般)	桑名 行雄	780,000	精神障害者のrecoveryを促進する看護師の態度に関する研究
基盤研究(C)(一般)	星 和美	1,950,000	中堅期・新人期の看護師における看護コンピテンス連鎖モデルの構築
基盤研究(C)(一般)	階堂 武郎	1,950,000	呼吸器疾患患者の増悪およびQOL低下に関連する気象要因
基盤研究(C)(一般)	井端 美奈子	910,000	身体的障がいを持つ子どもと家族へのセクシュアリティ支援に関する研究
基盤研究(C)(一般)	鎌田 佳奈美	910,000	潜在的なリスクをもつ家族の虐待予防に向けた看護職共有のアセスメントツールの開発
基盤研究(C)(一般)	中嶋 有加里	2,730,000	妊婦と胎児・乳幼児の命を守るシートベルト着用推進教育プログラムの開発と評価
基盤研究(C)(一般)	和泉 京子	2,470,000	健康格差をふまえた国民健康保険加入者の壮年期から高齢期の継続的な支援方略の開発
基盤研究(C)(一般)	郷良 淳子	1,040,000	頻回な自傷行為を呈する思春期患者の感情統制ストレージに関する研究
基盤研究(C)(一般)	石澤 美保子	1,690,000	クリティカルケア領域における特徴的な皮膚障害の発生要因およびケア内容の検証
基盤研究(C)(一般)	池田 由紀	2,080,000	慢性呼吸器疾患患者への笑いヨガリラクゼーションプログラム評価
基盤研究(C)(一般)	勝山 貴美子	2,340,000	医療への信頼向上を目指した学際的医療連携チーム構築のための基盤研究
基盤研究(C)(一般)	細田 泰子	1,300,000	メタ認知の発達を支援する臨床学習環境のデザインに関する研究
基盤研究(C)(一般)	吉川 彰二	1,690,000	難治性てんかん患者の小児医療から成人医療へのトランジション・プログラムの開発
基盤研究(C)(一般)	山本 裕子	1,170,000	糖尿病診断後早期の患者のための学習支援教材の開発
基盤研究(C)(一般)	小笠 幸子	650,000	医療機関における看護職者のエンパワメント測定尺度開発のための基礎的研究
若手研究(B)	岡本 双美子	1,039,998	在宅における終末期がん患者を看取る家族へのグリーフケアプログラムの臨床導入と評価
若手研究(B)	別宮 直子	130,000	自閉症児の行動評価尺度を用いた療育効果と自閉症児の行動変容が与える母親への影響
若手研究(B)	大川 聡子	1,054,989	10代で出産した母親の発達過程一グループアプローチを通じた経年的変化の分析
若手研究(B)	前川 泰子	650,000	三次元動画画像解析による看護技術時の腰部「ひねり」の負荷に関する研究
若手研究(B)	橋本 あかね	3,250,000	消化器系ストーマ造設患者のセルフケア情報提供システムの開発
若手研究(B)	北村 有香	1,820,000	施設入所高齢者の下肢浮腫の定量的評価に基づく看護ケアの検討
若手研究(B)	通山 由美子	210,288	日本の小児医療における看護師とCLS、HPSの連携モデルの構築
若手研究(B)	山居 輝美	780,000	外傷性高次脳機能障害における生活の変化と対処法に関する研究
研究活動スタート支援	江口 恭子	1,118,000	認知症対応型通所介護施設におけるケア実践力向上アクションプランの作成
研究活動スタート支援	長谷川 智子	1,222,000	インターフェロン療法が終了したC型慢性肝炎患者が抱く不確かさ
挑戦の萌芽研究	牧野 裕子	1,000,000	訪問看護・在宅ケアサービスにおける包括的危機管理体制の構築
合計		58,555,275	

(研究分担者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	町浦 美智子	130,000	母親の子育てを支援する祖母のいきいきライフを促進する教育プログラムの実践
基盤研究(C)	町浦 美智子	91,000	月経前症候群のある女性のQOL向上を目指した呼吸法の有用性
基盤研究(C)	榎木野 裕美	130,000	不任治療による産褥期の母親の育児状況アセスメントツールの開発と実践普及
基盤研究(C)	上野 昌江	13,000	自閉症スペクトラム障害に対するペアレントインギング・プログラムの確立に関する研究
基盤研究(B)	長畑 多代	130,000	障害高齢者の自立支援に向けた「看護・介護のシーティング・ガイドライン」の開発
基盤研究(C)	高見沢 恵美子	13,000	心臓血管外科手術を受ける患者及び家族の手術意思決定サポートシステムの開発
基盤研究(C)	青山 ヒフミ	65,000	新人看護師の看護専門職業人としてのキャリア発達を促す教育支援プログラムの開発
基盤研究(B)	杉本 吉恵	390,000	障害高齢者の自立支援に向けた「看護・介護のシーティング・ガイドライン」の開発
基盤研究(C)	星 和美	260,000	潜在看護師復職教育プログラムの構築
基盤研究(B)	和泉 京子	390,000	在宅虚弱高齢者に対する学際的予防訪問プログラムの効果と標準化の確立
基盤研究(C)	石澤 美保子	130,000	心臓血管外科手術を受ける患者及び家族の手術意思決定サポートシステムの開発
基盤研究(C)	細田 泰子	39,000	看護学生のコミュニケーション能力の向上を目指した継続的教育方法の検討
基盤研究(C)	細田 泰子	260,000	潜在看護師復職教育プログラムの構築
基盤研究(C)	田中 結華	91,000	慢性の病における他者への「言いづらさ」と看護のあり方についての研究
基盤研究(C)	勝山 貴美子	65,000	新人看護師の看護専門職業人としてのキャリア発達を促す教育支援プログラムの開発
基盤研究(C)	来栖 清美	65,000	生活病理に抗するための生活臨床に関する実証的研究
基盤研究(C)	竹下 裕子	130,000	心臓血管外科手術を受ける患者及び家族の手術意思決定サポートシステムの開発
挑戦の萌芽研究	森木 ゆう子	50,000	救急医療の社会的・倫理的問題への対応能力向上に向けた救急看護師教育システムの開発
合計		2,442,000	

第9章 社会貢献と国際交流

1. 地域社会への貢献

1) 公開講座

大阪府立大学羽曳野キャンパス公開講座は、看護学部と総合リハビリテーション学部の合同で開催している。また羽曳野市の事業である「はびきの市民大学」と連携することで、より地域社会に密着したサービスを展開している。平成22年度は総合リハビリテーション学部が主担当であり、その概要は資料9-1-1の通りであった。募集人員100名（内50名は「はびきの市民大学」と同時に募集）に対し、申込者93名、受講者87名で、延べ参加者は296名であった。受講者に対するアンケートの結果、受講者の男女比率は6:4、年代は60歳代50.7%、70歳代34.8%でほとんどが60歳以上であった。また市の広報誌で知った受講者が一番多く（36.2%）、受講者の60.7%が羽曳野市民であった。全体の印象として75.4%がとても良かった・良かったとし、役立つ知識が得られた（72.4%）、来年もまた参加したい（75.4%）と回答していた。

府大講座は府立大学全学部の分担により開催されている。平成22年度は8月26日から9月9日の日程で、看護学部は9講座のうち8月26日の1講座を担当した。担当講師は青山ヒフミ教授、講義題名は「医療安全と看護」であった。

出前講義は「教員データベース」に出前可能項目を記載することで公表され、地域社会からのニーズに対応している。平成22年度において看護学部からは古山美穂助教（実施:7月17日、申込者:開智中学校・高等学校、タイトル:セキュアリティと向き合う看護—性のイメージを揺らして—、8月9日、申込者:社団法人日本セカンドライフ協会、タイトル:Hだけじゃない心が生きる性）と長畑多代教授（実施:9月8日、申込者:社会福祉法人森の宮福祉会、タイトル:家族や知人として認知症高齢者を支えるには）の2教員が対応した。

資料9-1-1 平成22年度 公開講座

テーマ 「快適な人生（QOL）をめざして～健康についての最近の話題～」			
第1日目：10月19日（火）13：00～14：30			
《開講式》	あいさつ	総合リハビリテーション学部長	今木 雅英
《題目》	歯ミニング	総合リハビリテーション学部	
	○講義	栄養療法学科 教授	吉田 幸恵
第2日目：10月26日（火）13：00～14：30			
《題目》	生活習慣を知ろう—ライフログのすすめ—		
	○講義	総合リハビリテーション学部	
		栄養療法学科 教授	菅野 正嗣
第3日目：11月2日（火）13：00～14：30			
《題目》	生活に役立つ感染対策—インフルエンザ、食中毒など—		
	○講義	看護学部 助教	斎野 貴史
第4日目：11月9日（火）13：00～14：30			
《題目》	生体リズムと栄養		
	○講義	総合リハビリテーション学部	
		栄養療法学科 教授	宮谷 秀一
《開講式》	修了証書授与	看護学部長	高見沢 恵美子

2) 地域サービス：療養学習支援センター活動

療養学習支援センターは、大学院看護学研究科の附置研究所として位置付けられ、療養学習支援に関する研究・教育、実践、情報提供、学術交流を図ることを目的としている。地域貢献活動として、プロジェクト活動、闘病記文庫、健康フェアの開催を行った。

プロジェクト活動では、電話や来所相談として「手術についてのお悩み相談」「長期療養が必要な病気の相談」「患者アドボカシー相談」を行っている。センターに来所する教室として「脳いきいき教室」「前向き子育てプログラム」「感染予防のための手洗い講習会」を開催した。また、当事者や家族の集まりとして「肺がん患者さんのご家族のためのサロン」「つばさの会」を開催した。1回の参加人数は、プロジェクトにより数名から40名と差がみられるが、年間通じてのべ500名程度の参加があり、地域での活動が定着し、拡大してきている。

健康フェアは、杏樹祭（大学祭）時に、健康に関する身体測定（体組成、骨密度、動脈硬化度など）、体操、健康相談を内容として開催したところ、52名の市民参加があり、地域の健康づくりに貢献することができている。

闘病記文庫は、羽曳野図書館センター内に開架し、学生や市民に利用されている。新刊図書を購入し、活動の充実に努めている。

療養学習支援センターの活動に関する報告は、年報として刊行し、全国の看護系大学に配布している。

以上のことから、療養学習支援センターにおける地域への教育サービス活動の成果は上がっている。

3) 高大連携

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高大連携推進委員会や療養学習支援センターのプロジェクト活動によって実施されている。平成21年度には、高大連携推進委員会を通して、高校生が受講できる科目として看護学部で開講している授業科目「セクシュアリティと看護」（1単位15時間）を提供した。講義日程は以下に示すとおりである（資料9-1-3参照）。受講者は5名であり、受講終了後に修了証が交付された。

資料9-1-3 「セクシュアリティと看護」の講義日程

1. 開講日時	平成22年11月29日(月)～平成23年1月31日(月)（Vコマ）まで8回 羽曳野キャンパス L棟204号室
2. 対象	高校2年生（看護学部1年次生、2年次編入生と一緒に講義を受ける）
3. 最小開講人数	看護学部生と一緒に講義を受講するため特になし
4. 講義内容	ヒューマンセクシュアリティについて理解を深め、人間の性、生き方を洞察しながら自己のセクシュアリティ観を育むことを目指しています。 ・ヒューマン・セクシュアリティの概念を学ぶ ・自己のセクシュアリティについて考える ・現代社会におけるセクシュアリティの問題・課題を認識できる

また、療養学習支援センターのプロジェクト活動の一環である「学校等における出張セクシュアリティ教育」の中で出張講義を行っている。平成22年度は大阪府立系（府外や市立系も含む）の高等学校において総計1,350名の高校生にデートバイオレンス予防や避妊・性感染症予防、命の大切さ、多様な性などをテーマに出張講義を行った。

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高校生と看護学部生と一緒に受講できる科目の開講や高校生を対象とした出張講義を実施しており、適切に行われている。

4) 教員の社会貢献

看護学部に所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的な参画が行われている。参画する審議会等の公的団体としては、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。社会貢献は「資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧」に示すとおりである。

2. 国際交流

1) マヒドン大学との学術交流

平成20年4月に結ばれたタイ王国マヒドン大学看護学部並びに同大学医学部看護学科との学術交流協定に基づき、大学院生の学生交換プログラムを実施した。本年度は、平成22年9月に本研究科学生2名がマヒドン大学において2週間の研修を終えた。例年は4名の大学院生が参加するが、今年はタイの政情不安より参加者が少なかった。来年度は、大学院学生4名の受入れを予定している。

2) 国際セミナー開催

第15回国際看護セミナーを開催した。例年外国人講師による講演を実施してきたが、平成22年度は国際的な視野を身近なものと感じてもらうことを目的に、「国際貢献」の経験が深い看護職の日本人講師を招待した。

資料9-2-2 平成22年度国際セミナー

平成22年度 第15回国際看護セミナー 平成22年11月4日	講演者：関育子氏（日本赤十字九州国際看護大学 教授） 自身の活動歴の紹介や国際的な視野の重要性を訴えた。 講演者：内木場瑠美氏（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター看護師） ガボンでの青年海外協力隊（エイズ対策）の経験談や国際貢献で大事な考え方などをわかりやすく講演した。 講演者：向井信子氏（大阪リハビリテーション病院 看護師） NGOを通じたスーダンでの医療支援や生活状況を講演した。
--------------------------------------	--

3) 研究者の派遣

延べ17名の研究者が派遣された。

資料9-2-3 平成22年度国際交流研究者の派遣

氏名	旅行日(発)	旅行日(着)	派遣国	用務詳細
郷良淳子	H22. 4. 24	H22. 5. 8	アメリカ	ラッシュ大学・リンデンオークス病院(シカゴ 米国)
垣本和宏	H22. 8. 29	H22. 9. 1	タイ	国際交流委員会活動としてタイ・マヒドン大学を訪問
中村裕美子	H22. 9. 11	H22. 9. 19	フィンランド	「ICNE2010-11th International ICNE conference 学会出席」の為他

垣本和宏	H22. 9. 14	H22. 9. 23	インドネシア	インドネシア政府の要請に基づく JICA 専門家
上野昌江	H22. 9. 26	H22. 9. 30	アメリカ	ハワイ 「ISPCAN」
中村裕美子	H22. 10. 12	H22. 10. 19	ルーマニア	「IADIS WWW/Internet2010 学会」出席の為
中山美由紀	H22. 10. 26	H22. 11. 1	イタリア	「16th International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology」学会発表
田中京子	H22. 11. 11	H22. 11. 16	アメリカ	オランダにて ONS 11th Annual Institutes of Learning (IOL) 研修
田中登美	H22. 11. 11	H22. 11. 16	アメリカ	オランダにて ONS 11th Annual Institutes of Learning (IOL) 研修
林田裕美	H22. 11. 11	H22. 11. 16	アメリカ	オランダにて ONS 11th Annual Institutes of Learning (IOL) 研修
垣本和宏	H22. 11. 22	H22. 11. 26	ラオス	アジア太平洋国連 HIV 母子感染タスクフォース会議に出席
杉本吉恵	H22. 11. 28	H22. 12. 5	ドイツ	ドイツの医療福祉施設におけるシーティングの状況視察
細田泰子	H23. 2. 10	H23. 2. 12	韓国	第 14 回 EAFONS にて学会発表
大川聡子	H23. 2. 10	H23. 2. 11	韓国	第 14 回 EAFONS にて学会発表
根来佐由美	H23. 2. 10	H23. 2. 12	韓国	第 14 回 EAFONS にて学会発表
垣本和宏	H23. 3. 6	H23. 3. 11	カンボジア	HIV 調査の結果打ち合わせ
山田加奈子	H23. 3. 6	H23. 3. 11	カンボジア	HIV 調査の結果打ち合わせ
杉本吉恵	H23. 3. 26	H23. 4. 2	アメリカ	11th annual safe patient handling & movement conference でのポスター発表ならびにハンドリング研修会参加

資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧

1) 著書

氏名	出版年月	分担題名	著者名	書名	出版社名	掲載頁
高辻 功一	201010	10 生命活動	高辻功一	2011看護師国家試験必修問題オール予想	医学芸術社	86-95
町浦 美智子	201103	パートI女性の健康の基礎となる主要な概念 VII女性の健康と家族看護	高橋真理, 村本淳子, 町浦美智子 他	ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護 第2版	ヌーヴェルヒロカワ	106-115
桑名 行雄	201007		著者多数	自殺の看護	すびか書房	
中村 裕美子	201101	地域看護活動の場 在宅看護医療	中村裕美子	標準保健師講座1	医学書院	79-85
	201101	地域看護活動の計画・実践・評価	中村裕美子, 奥山則子	地域看護学概論	医学書院	121-129
	201101	地域診断演習	中村裕美子, 奥山則子, 渡部井子	地域看護学概論	医学書院	130-146
田中 京子	201010	化学療法合併症の管理: 看護の視点から	著者多数	ワシントンがん診療マニュアル	メディカル・サイエンス・インターナショナル	559-593
旗持 知恵子	201011	生活習慣病の家族看護	著者多数	看護学シリーズ 家族看護学 第4章生活習慣病の家族看護	PILAR PRESS	201-207
鎌田 佳奈美	201004	小児看護学	著者多数	ラ・スバ過去問対策2011	医学評論社	66-68 233-235
井端 美奈子	201006	臨床での応用例 妊婦・産婦・褥婦.	井端美奈子, 植村桃恵	アロマセラピー入門—日々の看護に生かすホリスティックアプローチ	日本看護協会出版会	125-132
	201102		著者多数	今すぐ使えるメディカルアロマセラピーTextbook	メディカ出版	140-141 152-153 163
牧野 裕子	201102	場面で学ぶ在宅看護	著者多数	G-Supple 理論・実践統合学習「場面で学ぶ在宅看護論」	メディカ出版	39-4, 56-57 75-76 162-169
田中 登美	201007	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助: 前立腺がん	著者多数	NURSING 看護学テキストNICE 成人看護学 慢性期看護	南江堂	369-371
	201012		田中登美	外来がん化学療法—基礎知識・レジメン・チーム医療 (Nursing Mook 62)	学研メディカル秀潤社	
小笠 幸子	201005			大阪府立大学における分野横断型研究—21世紀科学研究所の挑戦—	中央経済社	173-192
竹下 裕子			著者多数	ブレインナーシング	メディカ出版	
			著者多数	疾患と看護過程 実践ガイド	医学芸術社	
			著者多数	がん看護コアカリキュラム(翻訳本)	医学書院	

2) 学会誌・発表論文

氏名	出版年月	著書または発表論文の題名、発表テーマ	著者名	掲載誌名	主催団体名	巻号	掲載頁
垣本 和宏	201008	Prevalence and barriers to HIV testing among mothers at a tertiary care hospital in Phnom Penh, Cambodia	Sasaki Y., Ali M., Sathiarany V., Kanal K., Kakimoto K.	BMC Public Health	Bio Med Central	10	494
	201009	Expansion of antiretroviral treatment to rural health centre level by a mobile service in Mumbwa district, Zambia	Christopher Dube, Ikuma Nozaki, Tadao Hayakawa, Kazuhiko Kakimoto, Norio Yamada, James B Simpungwe	Bull World Health Organ.	WHO	88	788-791
	201012	Predictors of Exclusive Breast-Feeding in Early Infancy: A Survey Report from Phnom Penh, Cambodia	Yuri Sasaki, Moazzam Ali, Kazuhiko Kakimoto, Ou Saroeun, Koum Kanal, Chushi Kuroiwa	Journal of Pediatric Nursing	米国小児看護協会	25	6 461-594
	201101	Paediatric HIV and elimination of mother-to-child transmission of HIV in the ASEAN region: a call to action	Ishikawa N., Ishigaki K., Ghidini M., Ikeda K., Honda M., Miyamoto H., Kakimoto K., Oka S.	AIDS Care	Taylor & Francis Group	23	4 413-416
中山 美由紀	201004	NICUにおける家族への看護介入に関する文献検討	藤野百合, 中山美由紀	母性衛生	日本母性衛生学会	51	1 1170-1179
	201103	NICUに入院した子どもをもつ母親の気持ちのメタ統合	藤野百合, 中山美由紀	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 65-76
榎木野 裕美	201006	小児看護学実習において看護学生がこどもと関わることを躊躇させる影響要因	小代仁美, 榎木野裕美	日本看護研究学会雑誌	日本看護研究学会	33	2 69-76
町浦 美智子	201007	育児成のための基礎的研究(1) 青年期男女における乳幼児との継続接触体験の心理・生理・脳科学的指標による評価	佐々木綾子, 小坂浩隆, 末原紀美代, 町浦美智子, 波崎由美子, 松木健一, 定藤規弘, 岡沢秀彦, 田邊美智子	母性衛生	日本母性衛生学会	51	2 290-300
	201007	育児成のための基礎的研究(2) 青年期男女における乳幼児との継続接触体験の心理・生理・脳科学的指標による男女差の評価	佐々木綾子, 小坂浩隆, 末原紀美代, 町浦美智子, 波崎由美子, 松木健一, 定藤規弘, 岡沢秀彦, 田邊美智子	母性衛生	日本母性衛生学会	51	2 406-415
	201101	育児成のための基礎的研究(3) 青年期男女における乳幼児との継続接触体験の親準備性尺度・fMRIによる評価	佐々木綾子, 小坂浩隆, 末原紀美代, 町浦美智子, 定藤規弘, 岡沢秀彦	母性衛生	日本母性衛生学会	51	4 655-665
	201007	無介助分娩に関する情報源の実態とその問題点	奥野春奈, 中嶋有加里, 町浦美智子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	46	1 12-15
	201103	性感感染症予防目的のコンドーム使用自己効力感の概念分析	斉藤早苗, 町浦美智子, 末原紀美代	梅花女子大学看護学部紀要	梅花女子大学看護学部	1	1 13-18
	桑名 行雄	2010	救命救急センターで勤務する看護師の自殺未遂患者に対する態度・構成要素と傾向についての量的研究	崎崎貴雄, 桑名行雄	日本精神保健看護学会誌	日本精神保健看護学会	19
長畑 多代	201011	普通型車いすからいすへの変更による認知症高齢者の座位姿勢とその修正に関連する行動の変化	白井みどり, 佐々木八千代, 北村有香, 長畑多代, 萩野朋子, 山内加純, 今川真治, 臼井キミカ	日本認知症ケア学会誌	日本認知症ケア学会	9	3 564-572
中村 裕美子	2010	看護教育における臨床実習用ユビキタス学習環境の構築	真嶋由貴恵, 中村裕美子, 前川泰子	教育システム情報学科誌	教育システム情報学会	27	1 100-110
上野 昌江	2010	運動教室終了者を対象にした運動継続のための支援に関する検討	藤田俱子, 上野昌江	日本健康教育学会誌	日本健康教育学会	18	2 126-135
	2010	虐待発生予防の取組—家庭訪問の現状と課題	上野昌江	厚生労働	厚生労働省	65	11 5-6
	201103	子どもを護る保健師活動の現状と課題	上野昌江	公衆衛生	日本公衆衛生学会	75	3 197-201
	2011	自宅で生活する女性高齢者の転倒と住環境との関連	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	13	2 46-53
高見沢 恵美子	201008	緊急入院した循環器疾患患者とその家族へのせん妄ケアにおける看護師の認識と看護実践の阻害・促進要因	大西純子, 高見沢恵美子	日本循環器看護学会誌	日本循環器看護学会	6	1 50-58
	201008	クリティカルケアを受けている時期の急性心筋梗塞患者の希望および希望に影響する看護援助	稲垣美紀, 高見沢恵美子	日本循環器看護学会誌	日本循環器看護学会	6	1 70-78
旗持 知恵子	201103	老年期にある2型糖尿病男性患者の飲酒行動の実態—9事例の分析を通して—	宮澤美帆, 旗持知恵子	第41回日本看護学会論文集:成人看護Ⅱ	日本看護学会	41	25-28
	201012	経皮的冠動脈インターベンションを受けた心筋梗塞患者の回復過程における「不確かさ」—フォローアップ心臓カテーテル検査機関に焦点をあてて—	武田真弓, 旗持知恵子, 松下由美子	日本慢性看護学会誌	日本慢性看護学会	4	2 33-40
堀井 理司	201103	入院生活において院内DOTSを経験した結核患者のニーズ	久光由香, 堀井理司	日本感染看護学会誌	日本感染看護学会	7	1 26-32
青山 ヒフミ	201011	キャリア開発の節目を支える看護学教育—看護基礎教育から看護管理者ネットワークまで	青山ヒフミ	日本看護学教育学会誌	日本看護学教育学会	20	2 35-40
杉本 吉恵	201008	湯たんぽによる寝床内温度の経時的変化と保温範囲	大西由紀, 杉本吉恵, 網島ひずる, 大西英雄	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	9	2 14-20
	201101	水平移動時における被介護者の身体的負荷—ボディメカニクスとキネステティクスの比較—	吉井雅, 三宅由希子, 青井聡美, 市川祥子, 三浦理恵子, 杉本吉恵, 池田ひろみ, 塩川満久, 吉田彰	日本看護学会論文集:看護総合	日本看護学会	41	375-378
	201101	仰臥位から端坐位への体位変換時の被介護者の身体的負荷—筋電図を用いた比較検討—	市川祥子, 青井聡美, 吉井雅, 三浦理恵子, 杉本吉恵, 三宅由希子, 池田ひろみ, 塩川満久, 吉田彰	日本看護学会論文集:看護総合	日本看護学会	41	371-374
星 和美	201103	施設内教育担当者の視点からみた中堅期の看護師のコンピテンシー	細田泰子, 星和美, 藤原千恵子, 石井京子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 37-44
	201103	専門・関心領域を明確にしている中堅看護師のキャリアデザインとその環境要因	卯川久美, 細田泰子, 星和美	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 1-12
	201103	看護系大学生の社会人基礎力の構成要素と属性による関連の検討	北島洋子, 細田泰子, 星和美	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 13-23
井端 美奈子	2010	エイズ看護の在り方に関する研究	井端美奈子	平成21年度 研究報告書	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業		77-80
岡本 双美子	201004	拒否患者における円滑な在宅移行のための看護師間連携モデルの開発と評価	立石容子, 児浦博子, 原田かおる, 三輪恭子, 谷口優子, 阿部崇子, 岡本双美子, 河野あゆみ	日本看護学会論文集:地域看護	日本看護協会	40	133-135
	201009	手術後がん患者の退院時における状況と求める看護支援	白田久美子, 吉村弥須子, 花房陽子, 鈴木けい子, 別宮直子, 前田勇子, 岡本双美子	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会	24	2 32-40
中嶋 有加里	201008	妊娠糖尿病女性の母乳栄養確立に向けての看護援助	永田貴子, 中嶋有加里, 末原紀美代	糖尿病と妊娠	日本糖尿病・妊娠学会	10	1 148-151
	201007	無介助分娩に関する情報源の実態とその問題点	奥野春奈, 中嶋有加里, 町浦美智子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	46	1 12-15
	201010	Designing an E-learning System to Support Re-employment of Potential Nurses	Y.mjima, Y.Nakamura, Y.Maekawa, Y.Nakaiima, M.Hiramatsu	Proceedings of The IADIS International Conference	WWW/INTERNET 2010		402-405
	201011	潜在看護師のための再就職支援研修 eラーニングシステムの開発	真嶋由貴恵, 中村裕美子, 前川泰子, 牧野裕子, 中嶋有加里, 平松瑞子	第30回医療情報学連合大会論文集	第30回医療情報学連合大会		1374-1379
和泉 京子	2011	自治体福祉NPO団体で活動する地域住民の特徴	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 杉本華澄, 村山久美子 他	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 93-102
	2011	自宅で生活する女性高齢者の転倒と住環境との関連	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	13	2 46-53
池田 由紀		在宅酸素療法を予期したCOPD患者の感情	今戸美奈子, 土居洋子, 池田由紀, 森路芳子, 近藤勝美, 石原実樹	日本呼吸管理学会誌		15	4 635-640

氏名	出版年月	著書または発表論文の題名、発表テーマ	著者名	掲載誌名	主催団体名	巻号	掲載頁	
石澤 美保子		仙骨部褥瘡における創改善と周囲皮膚の水分バリア機能変化との関連	石澤美保子, 阿曾洋子, 瀧元佳江, 伊部亜希, 小川雅昭	日本褥瘡学会誌		11	4 533-538	
		社会復帰ケアにおけるストーマ装具選択基準の一提案	大村裕子, 秋山結美子, 石澤美保子, 後藤真由美, 熊谷英子, 品田ひとみ, 末永きよみ, 堀友子, 松浦信子, 丸山弘美, 三富陽子, 山田陽子, 山本由利子, 渡邊百合枝, 穴澤貞夫, 阿部信一, 五島本也	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌				
		ストーマ装具選択に必要な装具分類	熊谷英子, 大村裕子, 山本由利子, 秋山結美子, 後藤真由美, 品田ひとみ, 堀友子, 石澤美保子, 末永きよみ, 松浦信子, 丸山弘美, 渡邊百合枝, 穴澤貞夫, 阿部信一, 五島本也	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌				
		適正なストーマ装具選択のためのストーマ・フィジカルアセスメントツール作	山田陽子, 松浦信子, 末永きよみ, 秋山結美子, 渡邊百合枝, 堀友子, 丸山弘美, 後藤真由美, 熊谷英子, 山本由利子, 三富陽子, 品田ひとみ, 石澤美保子, 阿部信一, 五島本也, 大村裕子, 穴澤貞夫	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌				
		ストーマ装具の選択基準に関する文献レビュー	品田ひとみ, 大村裕子, 五十嵐弘美, 石澤美保子, 熊谷英子, 後藤真由美, 佐内結美子, 末永きよみ, 堀友子, 武田信子, 三富陽子, 山田陽子, 山本由利子, 渡邊百合枝, 穴澤貞夫, 阿部信一, 五島本也	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌				
勝山 貴美子		医療への患者参加を促進する情報提供に関する実態調査(国民/患者(非医療従事者))を対象として	豊増佳子, 岩井郁子, 石田昌宏, 香春知永, 小谷野康子, 佐藤紀子, 辻本好子, 鳥羽克子, 中木高夫, 樋口純雄, 勝山貴美子, 下谷恵美	日本POS医療学会雑誌		6	1 141-145	
		医療への患者参加を促進する情報提供に関する実態調査(医師・歯科医師を対象として)	中木高夫, 岩井郁子, 石田昌宏, 香春知永, 小谷野康子, 佐藤紀子, 辻本好子, 鳥羽克子, 豊増佳子, 樋口純雄, 勝山貴美子, 下谷恵美	日本POS医療学会雑誌		6	1 146-150	
		医療への患者参加を促進する情報提供に関する実態調査: 診療情報提供に関する精神科看護婦・看護士の認識調査(一般科看護婦・看護士と比較して)	小谷野康子, 岩井郁子, 石田昌宏, 香春知永, 佐藤紀子, 辻本好子, 鳥羽克子, 豊増佳子, 中木高夫, 樋口純雄, 勝山貴美子, 下谷恵美	日本POS医療学会雑誌		6	1 151-155	
	201006	Computer Analysis System of the Physician-Patient Consultation Process	kimiko katsuyama, kouyama yuichi, hirano yasushi, mase kenji, kato ken, mizuno satoshi, yamauchi kazunobu	International Journal of Health Care Quality Assurance (in printing)		23	4 378-399	
		Factors relating to doctors' desire to change hospitals in Japan	井田浩正, 勝山貴美子, 三浦昌子, 山崎和彦, 山内一信	International Journal of Health Care Quality Assurance (in printing)				
	201007	愛知県における二次医療圏内受療割合の特徴—小児科と産婦人科を中心に—	勝山貴美子, 加藤憲, 宮治真, 藤原奈佳子, 小林三太郎, 天野寛, 川原弘久, 牧靖典, 榎木充明, 妹尾淑郎	社会医学研究		27	2	
	201004	受療行動からみた二次医療圏の問題と限界—愛知県における小児科と産婦人科を中心に—	勝山貴美子, 加藤憲, 宮治真, 藤原奈佳子, 小林三太郎, 天野寛, 川原弘久, 牧靖典, 榎木充明, 妹尾淑郎	社会医学研究		27	1	
		広がる看護 深まる看護—現代の看護が置かれている状況	勝山貴美子	看護学生			55	1
		日本における次世代の看護管理者教育とは何か?—アメリカのプログラムを学ぶを通して	勝山貴美子	大阪府立大学紀要	大阪府立大学看護学部			21-32
		中小規模病院資質向上委員会およびネットワーク構築事業とその評価『看護からみた中小規模病院の課題と活性化支援』	勝山貴美子, 青山ヒフミ, 上野恭宏, 北居明, 小笠幸子	大阪府立大学21世紀研究機構活動報告				
田中 結華	201001	ストーマサイトマーキングを実施した患者はストーマ外來に継続できているか?	松田常美, 曾我智美, 田中結華, 澤井智恵, 林純代, 野田英児, 井上透, 前田清	STOMA		17	1 15-16	
細田 泰子	201103	施設内教育担当者の視点からみた中堅期の看護師のコンピテンシー	細田泰子, 星和美, 藤原千恵子, 石井京子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 37-44	
	201103	専門・関心領域を明確にしている中堅看護師のキャリアデザインとその環境要因	卯川久美, 細田泰子, 星和美	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 1-12	
	201103	看護系大学生の社会人基礎力の構成要素と属性による相違の検討	北島洋子, 細田泰子, 星和美	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 13-23	
吉川 彰二		生涯発達過程で生じる危機に対する患者と家族のレジリエンスを高める支援システム研究—Ⅲ. 思春期・前青年期の対象のレジリエンス	仁尾かおり, 吉川彰二				33-37	
大川 聡子	2010	10代の母親が社会化する過程において、顕在化する支援ニーズ	大川聡子	立命館大学産業社会論集	立命館大学産業社会学会	46	2 67-88	
	2011	自治体福祉NPO団体で活動する地域住民の特徴	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 杉本華澄, 村山久美子 他	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 93-102	
山本 裕子	201103	初期2型糖尿病患者の糖尿病と診断されたこととセルフケアに対する思い	山本裕子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 45-53	
	201008	親権者不同意の一時保護に関する調査	才村純, 古山美穂	全児相:通巻第89号	全国児童相談所長会	89	1-123	
	201011	高校生対象のDVD教材「本気でCONDOMING〜HIV/エイズの予防と最新治療〜」の開発	泉柚岐, 井端美奈子, 白阪琢磨, 古山美穂	The Journal of AIDS Research	日本エイズ学会	12	4 339	
根来 佐由美	2011	自治体福祉NPO団体で活動する地域住民の特徴	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 杉本華澄, 村山久美子 他	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 93-102	
北村 有香	201011	普通型車いすから椅子への変更による認知症高齢者の座位姿勢とその修正に関する行動の変化	白井みどり, 佐々木八千代, 北村有香, 長畑多代, 萩野朋子, 山内加絵, 今川真治, 臼井キミカ	日本認知症ケア学会誌	ワールドプランニング	9	3 564-572	
山内 加絵	201009	普通型車いすから椅子への変更による認知症高齢者の座位姿勢とその修正に関する行動の変化	白井みどり, 佐々木八千代, 北村有香, 長畑多代, 萩野朋子, 山内加絵, 今川真治, 臼井キミカ	日本認知症ケア学会誌	日本認知症ケア学会	9	3 564-571	
中山 由美	2011	新人看護師が期待する指導者からの支援—救命救急領域に勤める新人看護師へのインタビューを通して—	中山由美	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	1 55-65	

3) 学術講演・学会発表

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
垣本 和宏	2010	助産師の育成・配置・定着に関する政府の介入—インドネシア、カンボジア、ラオス3カ国の比較	第25回日本国際保健医療学会	小原ひろみ、岡林広哲、櫻井幸枝、小山内泰代、垣本和宏、杉浦康夫、藤田則子
	2010	ザンビア都市部におけるHIV陽性者の感染の開示に影響を与える因子	第26回日本国際保健医療学会	栗山美香、Manyepa,Pauline, Zyambo,Matilda K, 野崎威功真、垣本和宏
	2010	アフリカ諸国におけるHIV母子感染予防の国家ガイドラインのレビュー	第27回日本国際保健医療学会	稲岡希実子、野崎威功真、蜂矢正彦、垣本和宏
	2010	Impact of HIV treatment and care services on the service delivery at health centres and communities in rural Zambia	第28回日本国際保健医療学会	Msiska Charles, Dube,Christopher M, 石川尚子、宮野真輔、野崎威功真、垣本和宏、Syakantu Gardner
	2010	実地疫学研修プログラム(FETP)の国際比較	第25回日本国際保健医療学会	平山隆則、田中好太郎、村上仁、蜂矢正彦、江上由里子、砂川富正、垣本和宏
高辻 功一	201009	健康人における両膝関節部温電法と音楽聴取がもたらす生理的变化	日本看護技術学会	福満舞子、杉本吉恵、田中結華、高辻功一
中山 美由紀	201009	新生児集中治療室(NICU)における家族看護アセスメントシートの検討—看護師へのインタビュー調査より—	日本家族看護学会第17回集会	藤野百合、中山美由紀
	201011	新生児集中治療室(NICU)に入院した子どもをもつ母親の思いに関するメタ統合	第51回日本母性衛生学会	藤野百合、中山美由紀
	201011	Gender difference in recognition for parenthood from pregnancy to 5-year after childbirth	16th ISPOG	Nakayama, M., Koizumi, T., Fukumaru, Y., Muto, T.
	201103	不妊外来に通院しているモンゴル女性の子どもや不妊に対する意識	日本助産学会第1回	中山美由紀、上澤悦子
	201103	子どもの誕生は夫婦に何をもちたか? : 夫婦関係、ライフスタイル、発達の变化	第22回日本発達心理学会大会	中山美由紀、福丸由佳、小泉智恵、照井裕子
榎木野 裕美	201006	採血・点滴を受ける幼児のプレパレーション過程における親の参画に関する認識	日本小児看護学会第20回学術集会	岡崎裕子、榎木野裕美、高橋清子、鈴木敦子
	201006	魅力的なプレパレーションを実践しよう	日本小児看護学会第20回学術集会	蝦名美智子、榎木野裕美、小野智美
	201009	採血・点滴を受ける3~5歳児へのプレパレーションに関する認識と実際—医師・看護師・家族の三者を比較して	第57回日本小児保健学会	橋本ゆかり、杉本陽子、蝦名美智子、榎木野裕美、今野美紀、松森直美、高橋清子、鈴木敦子、佐藤洋子、岡田洋子
	201009	痛みがある検査(咽頭・鼻腔培養検査と腰椎穿刺検査)における子どもへの説明の実際	第57回日本小児保健学会	蝦名美智子、今野美紀、松森直美、榎木野裕美、高橋清子、杉本陽子、橋本ゆかり、佐藤洋子、岡田洋子
	201009	胸部レントゲン検査と心電図検査における幼児への説明の実際	第57回日本小児保健学会	蝦名美智子、今野美紀、佐藤洋子、杉本陽子、橋本ゆかり、松森直美、榎木野裕美、岡田洋子、高橋清子
	201011	体外受精後の母親の育児実態—初産婦の語りから—	第51回日本母性衛生学会学術集会	宮田久枝、阿部正子、榎木野裕美
	201012	滴・採血を受ける子どものプレパレーションに関する看護師への認識調査—実施前の関わりについて—	第30回日本科学学会学術集会	杉本陽子、橋本ゆかり、蝦名美智子、榎木野裕美、今野美紀、松森直美、高橋清子、鈴木敦子、佐藤洋子、岡田洋子
	201012	点滴・採血を受ける子どものプレパレーションに関する看護師への認識調査—実施中の関わりについて—	第30回日本科学学会学術集会	橋本ゆかり、杉本陽子、蝦名美智子、榎木野裕美、今野美紀、松森直美、高橋清子、鈴木敦子、佐藤洋子、岡田洋子
	201012	手術を受ける子どものプレパレーションに関する医療者への意識調査	第30回日本科学学会学術集会	松森直美、蝦名美智子、今野美紀、榎木野裕美、杉本陽子、鈴木敦子、佐藤洋子、岡田洋子、高橋清子、橋本ゆかり
	町浦 美智子	201008	在日韓国・朝鮮人学生の性にに関する調査	第29回日本思春期学会総会・学術集会
201008		大学生と交際相手のライフスキルと避妊行動との関連	第29回日本思春期学会総会・学術集会	林桐代、町浦美智子、井端美奈子
201011		妊産婦の冷え自覚の変化と冷え対策への認識の変化	第51回日本母性衛生学会総会 学術集会	竹明美、伊藤尚美、町浦美智子、末原紀美代

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
上野 昌江	201007	子どもの虐待防止と向き合う保健師活動	第13回日本地域看護学会	上野昌江
	201007	大学から地域への発信活動-地域住民と大学の協働を考える	第13回日本地域看護学会	和泉京子, 上野昌江, 根来佐由美, 大川聡子, 河野あゆみ
	201007	A市における看護職による「乳児早期家庭訪問」の1歳6か月児健診時の評価	第13回日本地域看護学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201007	児童虐待事例への支援における保健師の児童福祉司との連携の実態	第13回日本地域看護学会	長谷川富美子, 上野昌江, 和泉京子
	201007	地域で開催されるサロンに参加する地域住民の体組成や音響的骨評価の実態と生活習慣との関連	第13回日本地域看護学会	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江
	201007	生活機能評価を受診した女性高齢者の再転倒の実態	第13回日本地域看護学会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子
	201009	Strategies for Assessing Children and Families Requiring Support Through Neonatal Home Visiting	18th International Congress of Child Abuse and Neglect	Ueno.Masae
	201010	堺市区民祭り参加者の乳がん健診と自己検診に関する意識の実態	第69回日本公衆衛生学会	坂本裕子, 上野昌江, 西本夕紀
	201010	看護職の資格を持つ養護教諭の語り	第69回日本公衆衛生学会	梶川温子, 猪子綾菜, 和泉京子, 上野昌江
	201010	A市における乳児早期家庭訪問による子育て支援 1報-訪問できなかった事例の分析	第69回日本公衆衛生学会	中村幸子, 河内敬子, 上野昌江, 和泉京子, 根来佐由美, 大川聡子
	201010	A市における乳児早期家庭訪問による子育て支援 2報-継続支援が必要な事例の分析	第69回日本公衆衛生学会	上野昌江, 和泉京子, 根来佐由美, 大川聡子, 中村幸子, 河内敬子
	201010	児童虐待事例への支援における保健師と児童福祉司の連携の実態	第69回日本公衆衛生学会	長谷川富美子, 上野昌江, 和泉京子
	201010	母親の育児不安と子どもの数およびきょうだいの年齢差との関連	第69回日本公衆衛生学会	尾崎倫子, 上野昌江, 和泉京子
	201010	会食会に参加した独居高齢者の日常生活の不自由さと交流状況との関連	第69回日本公衆衛生学会	杉本麻衣, 上野昌江, 和泉京子
	201010	地域住民の身体測定値及び生活習慣の実態(1) -地域のサロン参加者を対象として-	第69回日本公衆衛生学会	上村智子, 平尾頌子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201010	地域住民の身体測定値及び生活習慣の実態(2) -通所サービス利用者を対象として-	第69回日本公衆衛生学会	平尾頌子, 上村智子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201010	地域住民の社会参加活動に関する実態調査-自治型福祉NPO団体に着目して-	第69回日本公衆衛生学会	村山久美子, 杉本華澄, 根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江
	201012	地域住民が継続して身体測定会に参加する意義-参加者の測定値認知度及び健診受診状況に着目して-	第30回日本看護科学学会	根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201011	児童虐待事例への支援における保健師と児童福祉司の連携の実態	日本子ども虐待防止学会第16回学術集会	長谷川富美子, 上野昌江, 和泉京子
	201011	地域における虐待発生予防の支援-保健師が家庭訪問でできること	日本子ども虐待防止学会第16回学術集会	上野昌江, 山田和子, 薬師川厚子, 村田浩子, 木村和代
桑名 行雄	2010	統合失調症患者との遊びを取り入れたかかわり	第20回学術集会	川村晃右, 桑名行雄
	2010	精神障がいのある当事者の前向きな気持ちに影響を及ぼす看護師の態度	第20回学術集会	来栖清美, 桑名行雄
	2010	精神科新卒看護師が体験するジレンマの内容とそれへの対処	第20回学術集会	日下部祥子, 桑名行雄
	2010	看護師の「表層の演技」「深層の演技」とバーンアウトの関連	第20回学術集会	青木裕之, 桑名行雄
長畑 多代	201011	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りケア実践における看護職の役割	日本老年看護学会第15回学術会議	長畑多代, 山内加絵, 白井みどり, 松田千登勢
	201011	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りケアとその研修ニーズに関する実態調査	日本老年看護学会第15回学術会議	山内加絵, 長畑多代, 白井みどり, 松田千登勢
	201012	生活の場である特養での看取りを実現するために行っている看護職の支援内容	第30回日本看護科学学会学術集会	長畑多代, 山内加絵, 松田千登勢, 江口恭子
中村 裕美子	201009	未就労ナースの看護実践力と再就職研修ニーズに関連する要因の検討-効果的な再就職支援研修プログラムの開発に向けて-	日本教育工学会第26回全国大会	細田泰子, 星和美, 中村裕美子, 真嶋由貴恵
	201009	Comparison of training needs rehiring of unemployed nurses and nursing supervisors	INTERNATIONL CONFERENCE ICEN 2010 11th	Y.Nakamura, Y.Hosoda, K.Hoshi, Y.Majima
	201010	Designing an E-learning System to Support Re-employment of Potential Nurses	Proc.of WWW/INTERNET 2010	Y.Majima, Y.Nakamura, Y.Maekawa, H.Mkino, Y.Nkakajima, M.Hiramatsu
	201011	看護臨地実習におけるモバイルラーニングの継続実践とその評価	第35回教育システム情報学会全国大会	前川泰子, 中村裕美子, 真嶋由貴恵, 中嶋有加里, 平松瑞子, 堀井理司, 青山ヒフミ
	201012	退院支援を担う病棟看護師が抱く終末期がん患者の希望や不安に対する認識	第30回日本看護科学学会学術集会	今川志津子, 中村裕美子
	201012	要介護高齢者の胃瘻増設の選択を代理判断した家族の在宅移行後の感情	第30回日本看護科学学会学術集会	田村恵, 中村裕美子
	201012	認知症予防のための集団プログラム「脳いきいき教室」の経年実施による効果	第30回日本看護科学学会学術集会	牧野裕子, 中村裕美子, 太田暁子, 平松瑞子
高見沢 恵美子	201008	集中治療室における多臓器不全患者の家族への看護援助に対する看護師の認識と看護実践	第36回日本看護研究学会学術集会	中山智代美, 高見沢恵美子, 石澤美保子
	201008	来院時心肺停止患者の家族の悲嘆への援助に関する看護師の認識及び実践	第36回日本看護研究学会学術集会	安部美佐子, 高見沢恵美子, 石澤美保子
	201008	クリティカルケアに携わる看護師が患者との死別後に抱く悲嘆と対処行動	第36回日本看護研究学会学術集会	中村美乃生, 高見沢恵美子, 石澤美保子
	201011	心臓血管外科手術を受ける患者および家族の意思決定上のサポートシステムに関する看護師の認識	第7回日本循環看護学会学術集会	稲垣美紀, 竹下裕子, 石澤美保子, 高見沢恵美子, 池田敬子, 正井崇史

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
田中 京子	201102	閉経前乳がん患者がホルモン療法を受けることにより体験する苦痛	第25回日本がん看護学会学術集会	林田裕美, 田中京子
	201102	はじめて化学療法を受ける就労がん患者の役割及び役割遂行上の困難	第25回日本がん看護学会学術集会	田中登美, 田中京子
	201102	がん医療・看護に対する一般市民の認知及び看護師への期待	第25回日本がん看護学会学術集会	田中登美, 梶村郁子, 林田裕美, 田中京子
旗持 知恵子	201005	保存期糖尿病腎症女性患者の食事療法を継続するための意欲に関連する要因	第4回日本慢性看護学学術集会	須森未枝子, 旗持知恵子, 松下由美子
	201008	老年期にある2型糖尿病男性患者の飲酒行動の実態—9事例の分析を通して—	第41回日本看護学会学術集会—成人看護II	宮澤美帆, 旗持知恵子
	201012	虚血性心疾患患者のセルフモニタリングによる栄養摂取状況の変化—実践群と非実践群の比較	第30回日本看護科学学会学術集会	旗持知恵子, 中村美知子
	201103	心疾患とともに生きる人を支える看護を考える	山梨慢性看護研究会第1回学術集会	旗持知恵子
堀井 理司	201008	入院生活においてDOTSを経験した結核患者のニーズ	第10回日本感染看護学会学術集会	久光由香, 佐藤淑子, 堀井理司
	201103	地域住民への感染症予防対策の普及—感染症予防のための手洗い講習会を開催して—	第21回日本医学看護学教育学会学術集会	齋野貴史, 佐藤淑子, 堀井理司
青山 ヒフミ	201008	看護臨床実習におけるモバイルラーニングの継続実施とその評価	情報教育システム学会	前川泰子, 中村裕美子, 真島由貴恵, 中嶋有加里, 平松瑞子, 堀井理司, 青山ヒフミ
	201007	急性期病院に勤務する中堅看護師の配置希望と職務満足の関係	第20回日本看護学教育学会	撫養真紀子, 小笠幸子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ
	201008	一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する概念の明確化	第14回日本看護管理学会学術大会	撫養真紀子, 小笠幸子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ
	201008	先輩看護師が認識する一人前看護師の能力	第20回日本看護学教育学会	亀井葉子, 青山ヒフミ, 勝山貴美子, 小笠幸子
	201008	あなたならどうする!? 看護管理者の意思決定	第40回日本看護学会特別講演シンポジウム	青山ヒフミ, 宇都由美子, 松月みどり, 勝原裕美子
杉本 吉恵	201007	水平移動時における被介護者の身体的負荷—ボディメカニクスとキネステティクスの比較—	第41回日本看護学会:看護総合	吉井雅, 三宅由希子, 青井聡美, 市川祥子, 三浦理恵子, 杉本吉恵, 池田ひろみ, 塩川満久, 吉田彰
	201007	仰臥位から端坐位への体位変換時の被介護者の身体的負荷—筋電図を用いた比較検討—	第41回日本看護学会:看護総合	市川祥子, 青井聡美, 吉井雅, 三浦理恵子, 杉本吉恵, 三宅由希子, 池田ひろみ, 塩川満久, 吉田彰
	201010	健康人に対する両膝関節部温電法と音楽聴取がもたらす生理的変化	第9回日本看護技術学会学術集会	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一
星 和美	201009	Comparison of training needs for rehiring of unemployed nurses and nursing supervisors	The International Centre for Nursing Ethics (ICNE) 2010- 11th International ICNE Conference	Yumiko Nakamura, Yasuko Hosoda, Kazumi Hoshi, Yukie Majima
	201008	看護系大学生の社会人基礎力の構成要素	日本看護学教育学会第20回学術集会	北島洋子, 細田泰子, 星和美
	201008	専門・関心領域を明確にしている中堅看護師のキャリアデザインとその環境要因	日本看護学教育学会第20回学術集会	卯川久美, 細田泰子, 星和美
	201008	看護技術の学習方略尺度の開発—尺度項目の内容妥当性の検討—	日本看護学教育学会第20回学術集会	三吉友美子, 細田泰子, 星和美
	201008	救命救急センターに勤める新人看護師が必要としている指導者・管理者からの教育的な関わり	日本看護学教育学会第20回学術集会	中山由美, 細田泰子, 星和美
	201008	看護系大学生の社会人基礎力と看護実践力の関係	第36回日本看護研究会学術集会	北島洋子, 細田泰子, 星和美
	201009	未就労ナースの看護実践力と再就職研修ニーズに関連する要因の検討—効果的な再就職支援研修プログラムの開発に向けて—	日本教育工学会第26回全国大会	細田泰子, 星和美, 中村裕美子, 真島由貴恵
井端 美奈子	201004	思春期に達した総排泄口腔造瘻症女子のセクシュアルヘルスへの支援	第24回日本小児ストーマ・排泄研究会	井端美奈子
	201007	性器外観へのこだわりが強い先天性副腎過形成の思春期女子の事例—3回の外陰部形成術の経過を見守って—	第19回日本小児泌尿器科学会	井端美奈子, 島田憲次
	201008	思春期を迎える性文化疾患への対応	第20回日本小児泌尿器科学会	島田憲次, 松本富美, 松井太, 井出迫俊彦, 奈良啓吾, 井端美奈子
	201011	高校生対象のDVD教材「本気でCONDOMING ～HIVエイズの予防と最新治療～」の開発	第24回日本エイズ学会	泉柚岐, 井端美奈子, 白阪琢磨, 古山美穂
	201103	大学教育と臨床現場の両方に身を置いて	第25回日本助産学会	井端美奈子
岡本 双美子	201010	葬儀社によるグリーフケアの試み NPO法人「遺族支え愛ネット」の設立と協働	死の臨床研究会学術大会	廣江輝夫, 泉原久美, 黒川雅代子, 岡本双美子, 米虫圭子, 坂口幸弘
	201006	全国の総合周産期母子医療センター産科における看護師・助産師への分娩期Cardiotocogramの看護継続教育の実態	第12回日本母性看護学会学術集会	中井愛, 末原紀美代, 中嶋有加里
中嶋 有加里	201007	産科における助産師の分娩期Cardiotocogram判読の実態	第46回日本周産期・新生児医学会学術集会	中井愛, 末原紀美代, 池田智明, 中嶋有加里
	201008	看護臨床実習におけるモバイルラーニングの継続実施とその評価	第35回教育システム情報学会全国大会	前川泰子, 中村裕美子, 真島由貴恵, 中嶋有加里, 平松瑞子, 堀井理司, 青山ヒフミ
	201012	携帯電話の電磁波による子どもへの健康リスクに対する看護学生の認知	第49回大阪母性衛生学会学術集会	高英実, 上田晃子, 北林美紗子, 山田加奈子, 中嶋有加里
	201101	潜在看護師のための再就職支援研修eラーニングシステム	第5回 医療系大学eラーニング全国交流会	中村裕美子, 真島由貴恵, 前川泰子, 牧野裕子, 中嶋有加里, 星 和美, 細田泰子, 平松瑞子

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
和泉 京子	201007	大学から地域への発信活動ー地域住民と大学の協働を考える	第13回日本地域看護学会学術集会	和泉京子, 上野昌江, 根来佐由美, 大川聡子, 河野あゆみ
	201007	A市における看護職による「乳児早期家庭訪問」の1歳6カ月児健診時の評価	第13回日本地域看護学会学術集会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201007	児童虐待事例への支援における保健師の児童福祉司との連携の実態	第13回日本地域看護学会学術集会	長谷川富美子, 上野昌江, 和泉京子
	201007	地域で開催されるサロンに参加する地域住民の体組成や音響的骨評価の実態と生活習慣との関連	第13回日本地域看護学会学術集会	根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201009	児童虐待事例への支援における保健師と児童福祉司の連携の実態	第52回大阪小児保健研究会	長谷川富美子, 上野昌江, 和泉京子
	201010	看護職の資格を持つ養護教諭の語り	第69回日本公衆衛生学会総会	楞川温子, 猪子綾菜, 和泉京子, 上野昌江
	201010	A市における乳幼児早期家庭訪問による子育て支援 1報-訪問できなかった事例の分析	第69回日本公衆衛生学会総会	中村幸子, 河内敦子, 上野昌江, 和泉京子, 根来佐由美, 大川聡子
	201010	A市における乳幼児早期家庭訪問による子育て支援 2報-継続支援が必要な事例の分析	第69回日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 和泉京子, 根来佐由美, 大川聡子, 中村幸子, 河内敦子
	201010	児童虐待事例への支援における保健師と児童福祉司の連携の実態	第69回日本公衆衛生学会総会	長谷川富美子, 上野昌江, 和泉京子
	201010	母親の育児不安と子どもの数およびきょうだいの年齢差との関連	第69回日本公衆衛生学会総会	尾崎倫子, 上野昌江, 和泉京子
	201010	会食会に参加した独居高齢者の日常生活の不自由さと交流状況との関連	第69回日本公衆衛生学会総会	杉本麻衣, 上野昌江, 和泉京子
	201010	地域住民の身体測定値及び生活習慣の実態(1)ー地域のサロン参加者を対象として-	第69回日本公衆衛生学会総会	上村智子, 平尾頌子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201010	地域住民の身体測定値及び生活習慣の実態(2)ー通所サービス利用者を対象として-	第69回日本公衆衛生学会総会	平尾頌子, 上村智子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201010	向老期世代の身体心理社会的状況にみた保健福祉サービスの利用と希望に関する研究	第69回日本公衆衛生学会総会	和泉京子, 阿曾洋子
	201010	男性介護者の介護の実態とニーズをふまえた支援の検討(1報) アンケート調査より	第69回日本公衆衛生学会総会	桂山真希, 宮藤よひ, 森田こずえ, 中島佐和子, 和泉京子
	201010	男性介護者の介護の実態とニーズをふまえた支援の検討(2報) 男性介護者のつどいより	第69回日本公衆衛生学会総会	森田こずえ, 中島佐和子, 桂山真希, 宮藤よひ, 和泉京子
	201010	地域住民の社会参加活動に関する実態調査 -自治型福祉NPO団体に着目して-	第69回日本公衆衛生学会総会	村山久美子, 杉本華澄, 根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江
	201012	地域住民が継続して身体測定会に参加する意義ー参加者の測定値認知度及び健診受診状況に着目してー	第30回日本看護科学学会学術集会	根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201012	向老期世代の身体心理社会的状況別にみた老いの認識および老いへの備え	第30回日本看護科学学会学術集会	和泉京子, 阿曾洋子
	201102	A Characteristic of Community People who Participate in a Social Activities of Local Social Welfare Non Profit Organization in Japan	14th East Asia Forum of Nursing Scholars	Sayumi NEGORO, Satoko OKAWA, Kyoko IZUMI, Masae UENO, Kasumi SUGIMOTO, Kumiko MURAYAMA
201102	Factors related to depression and care levels after 5 years in elderly people with lower care levels in Japan	14th East Asia Forum of Nursing Scholars	Kyoko IZUMI, Yoko ASO	
牧野 裕子	201010	Designing an E-learning System to Support Re-employment of Potential Nurses	Proc.of WWW/INTERNET 2010	Y.Majima, Y.Nakamura, Y.Maekawa, H.Mkino, Y.Nkakajima, M.Hiramatsu
	201011	潜在看護師のための再就職支援研修eラーニングシステム	第30回日本医療情報学会	真嶋由貴恵, 中村裕美子, 前川泰子, 牧野裕子, 中嶋有加里, 平松瑞子
	201012	認知症予防のための集団プログラム「脳いきいき教室」の経年実施による効果	第30回日本看護科学学会	牧野裕子, 中村裕美子, 太田暁子, 平松瑞子
松田 千登勢	201011	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りケア実践における看護職の役割	日本老年看護学会第15回学術会議	長畑多代, 山内加絵, 白井みどり, 松田千登勢
	201011	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りケアとその研修ニーズに関する実態調査	日本老年看護学会第15回学術会議	山内加絵, 長畑多代, 白井みどり, 松田千登勢
	201012	生活の場である特養での看取りを実現するために行っている看護職の支援内容	第30回日本看護科学学会学術集会	長畑多代, 山内加絵, 松田千登勢, 江口恭子
佐藤 淑子	201008	入院生活において院内DOTSを経験した結核患者のニーズ	第10回日本感染看護学会学術集会	久光由香, 佐藤淑子, 堀井理司
	201103	地域住民への感染症予防対策の普及ー感染症予防のための手洗い講習会を開催して-	第21回日本医学看護学会教育学会学術集会	齋野貴史, 佐藤淑子, 堀井理司
林田 裕美	201102	閉経前乳がん患者がホルモン療法を受けることにより体験する苦痛	第25回日本がん看護学会学術集会	林田裕美, 田中京子
	201102	がん医療・看護に対する一般市民の認知および看護師への期待	第25回日本がん看護学会学術集会	田中登美, 梶村郁子, 林田裕美, 田中京子
田中 結華	201010	健康人に対する両膝関節部温電法と音楽聴取がもたらす生理的变化	日本看護技術学会第9回学術集会	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一
	201012	慢性の病における他者への言いつらさが意味するものー5つのライフストーリーよりー	第30回日本看護科学学会学術集会	寶田穂, 黒江ゆり子, 市橋恵子, 中岡亜希子, 森谷利香, 鈴木靖子, 田中結華, 藤澤まこと, 藤岡敦子
	201006	こころの病と言いつらさ 慢性の病における他者への「言いつらさ」のライフストーリーより(1)	第4回日本慢性看護学会学術集会	寶田穂, 鈴木靖子, 黒江ゆり子, 市橋恵子, 藤澤まこと, 普照早苗, 田中結華, 中岡亜希子, 森谷利香, 河井伸子
	201006	パーキンソン病と言いつらさ 慢性の病における他者への「言いつらさ」のライフストーリーより(2)	第4回日本慢性看護学会学術集会	中岡亜希子, 黒江ゆり子, 寶田穂, 市橋恵子, 藤澤まこと, 普照早苗, 田中結華, 鈴木靖子, 森谷利香, 河井伸子
	201006	慢性の病いにおける他者への「言いつらさ」	第4回日本慢性看護学会学術集会	黒江ゆり子, 市橋恵子, 藤澤まこと, 普照早苗, 寶田穂, 田中結華, 鈴木靖子, 中岡亜希子, 河井伸子, 森谷利香
	201102	術前のストーリーメイクの現状について	第28回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	松田常美, 田中結華, 永原央, 野田英児, 前田清

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
細田 泰子	201009	Comparison of training needs for rehiring of unemployed nurses and nursing supervisors	The International Centre for Nursing Ethics (ICNE) 2010- 11th International ICNE Conference	Yumiko Nakamura, Yasuko Hosoda, Kazumi Hoshi, Yukie Majima
	201007	臨床看護師の看護過程展開能力とその関連要因	日本看護学教育学会第20回学術集会	中橋苗代, 細田泰子, 中岡亜希子, 新瀬朋未
	201008	日本語版Nurse Competence Scale (NCS)の信頼性と妥当性の検討	日本看護学教育学会第20回学術集会	細田泰子, 中岡亜希, 新瀬朋未
	201008	看護系大学生の社会人基礎力の構成要素	日本看護学教育学会第20回学術集会	北島洋子, 細田泰子, 星和美
	201008	専門・関心領域を明確にしている中堅看護師のキャリアデザインとその環境要因	日本看護学教育学会第20回学術集会	卯川久美, 細田泰子, 星和美
	201008	看護技術の学習方略尺度の開発－尺度項目の内容妥当性の検討－	日本看護学教育学会第20回学術集会	三吉友美子, 細田泰子, 星和美
	201008	救命救急センターに勤める新人看護師が必要としている指導者・管理者からの教育的な関わり	日本看護学教育学会第20回学術集会	中山由美, 細田泰子, 星和美
	201008	看護系大学生の社会人基礎力と看護実践力の関係	第36回日本看護研究会学術集会	北島洋子, 細田泰子, 星和美
	201009	未就労ナースの看護実践力と再就職研修ニーズに関連する要因の検討－効果的な再就職支援研修プログラムの開発に向けて－	日本教育工学会第26回全国大会	細田泰子, 星和美, 中村裕美子, 真嶋由貴恵
	201012	臨床看護師の看護実践能力とクリティカルシンキングの関連性	第30回日本看護科学学会学術集会	中岡亜希子, 細田泰子, 新瀬朋未, 中橋苗代, 片山由加里
	201012	看護学生における臨床学習環境、メタ認知、看護実践力の関係－大学生および専門学校生の特性－	第30回日本看護科学学会学術集会	細田泰子, 片山由加里, 土肥美子
	201012	実習における看護大学生のメタ認知を促進する支援とその影響要因	第30回日本看護科学学会学術集会	土肥美子, 細田泰子, 片山由加里
201102	Effects of clinical instructors' competence in nursing practice on the clinical learning environment in nursing practicums	14th East Asian Forum of Nursing scholars	Yasuko Hosoda, Akiko Nakaoka, Mitsuyo Nakahashi, Yukari Katayama	
大川 聡子	201102	Clarification of support needs in the process of socialization of teenage mothers.	The 14th EAFONS	大川聡子
山本 裕子	201010	糖尿病看護師の認識に基づく初期2型糖尿病患者の特徴と教育の実際	第15回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	山本裕子
田中 登美	201102	はじめて化学療法を受ける就労がん患者の役割及び役割遂行上の困難	第25回日本がん看護学会学術集会	田中登美, 田中京子
	201102	がん医療・看護に対する一般市民の認知および看護師への期待	第25回日本がん看護学会学術集会	田中登美, 梶村育子, 林田裕美, 田中京子
小笠 幸子	201007	急性期病院に勤務する中堅看護師の配置希望と職務満足の関係		撫養真紀子, 小笠幸子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ
椿 知恵	201003	「在日韓国・朝鮮人学生の性行動とそれに影響する要因」	大阪府立大学大学院 看護学研究科	椿知恵, 町浦美智子, 井端美奈子
	201008	在日韓国・朝鮮人学生の性に関する調査	第29回日本思春期学会	椿知恵, 町浦美智子, 井端美奈子
	201011	在日韓国・朝鮮人学生の性行動とそれに影響する要因	第33回医協学術報告会	高知恵
	201011	4年間の学校保健活動を通して見えてきた、子供・親・教員の変化	第33回医協学術報告会	伊佳愛, 高知恵, 周英姫
山田 加奈子	201012	携帯電話の電磁波による子どもへの健康リスクに対する看護学生の認知	第49回大阪母性衛生学会学術集会	高英実, 上田晃子, 北林美紗子, 山田加奈子, 中嶋有加里
江口 恭子	201012	生活の場である特養での看取りを実現するために行っている看護職の支援内容	第30回日本看護科学学会学術集会	長畑多代, 山内加絵, 松田千登勢, 江口恭子
根来 佐由美	201007	大学から地域への発信活動 地域住民と大学の協働を考える	第13回日本地域看護学会学術集会	和泉京子, 上野昌江, 根来佐由美, 大川聡子, 河野あゆみ
	201007	地域で開催されるサロンに参加する地域住民の体組成や音響的骨評価の実態と生活習慣との関連	第13回日本地域看護学会学術集会	根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201010	A市における乳幼児早期家庭訪問による子育て支援 1報-訪問できなかった事例の分析	第69回日本公衆衛生学会総会	中村幸子, 河内敦子, 上野昌江, 和泉京子, 根来佐由美, 大川聡子
	201010	A市における乳幼児早期家庭訪問による子育て支援 2報-継続支援が必要な事例の分析	第69回日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 和泉京子, 根来佐由美, 大川聡子, 中村幸子, 河内敦子
	201010	地域住民の身体測定値及び生活習慣の実態(1) -地域のサロン参加者を対象として-	第69回日本公衆衛生学会総会	上村智子, 平尾頌子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201010	地域住民の身体測定値及び生活習慣の実態(2) -通所サービス利用者を対象として-	第69回日本公衆衛生学会総会	平尾頌子, 上村智子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201010	地域住民の社会参加活動に関する実態調査 -自治型福祉NPO団体に着目して-	第69回日本公衆衛生学会総会	村山久美子, 杉本華澄, 根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江
	201010	成人のスキンケアに弱酸性水を用いた場合の皮膚角層水分量・PHの影響	第69回日本公衆衛生学会総会	田名部佳子, 葉山有香, 根来佐由美, 井上智子
	201010	水中運動指導者のスキンケアに関連する皮膚角層水分量・PHの実態	第69回日本公衆衛生学会総会	葉山有香, 田名部佳子, 根来佐由美, 井上智子
	201010	水中運動指導者のスキンケアに弱酸性水を用いた場合の皮膚角層水分量・PHの影響	第69回日本公衆衛生学会総会	根来佐由美, 田名部佳子, 葉山有香, 井上智子
	201012	地域住民が継続して身体測定会に参加する意義—参加者の測定値認知度及び健診受診状況に着目して—	第30回日本看護科学学会学術集会	根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201102	A Characteristic of Community People who Participate in a Social Activities of Local Social Welfare Non Profit Organization in Japan	14th East Asia Forum of Nursing Scholars	Savumi NEGORO, Satoko OKAWA, Kyoko IZUMI, Masae UENO, Kasumi SUGIMOTO, Kumiko MURAYAMA
古山 美穂	201011	高校生対象のDVD教材「本気でCONDOMING—HIV/エイズの予防と最新治療—」の開発	第24回日本エイズ学会	泉袖岐, 井端美奈子, 白阪琢磨, 古山美穂
北村 有香	201011	施設に入所する女性高齢者の下肢周径と自覚症状の経時的変化	日本老年看護学会	北村有香, 白井みどり

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
来栖 清美	201006	精神障がいのある当事者の前向きな気持ちに影響を及ぼす看護師の態度	日本精神保健看護学会第20回学術集会	来栖清美, 桑名行雄, 山口知代
	201008	生活病理・生活臨床に関する臨床教育学的研究3	第5回武庫川臨床教育学会研究大会	岩崎久志, 来栖清美 他5名
山内 加絵	201011	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りケアとその研修ニーズに関する実態調査	第15回日本老年看護学会	山内加絵, 長畑多代, 松田千登勢, 白井みどり
	201011	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りケア実践における看護職の役割	第15回日本老年看護学会	長畑多代, 山内加絵, 松田千登勢, 白井みどり
	201012	生活の場である特養での看取りを実現するために行っている看護職の支援内容	第30回日本看護科学学会学術集会	長畑多代, 山内加絵, 松田千登勢, 江口恭子
梶村 郁子	201011	消化器系ストーマ造設者のセルフケア情報提供システムの開発	第30回 医療情報学連合大会	橋本あかね, 梶村郁子
	201102	がん医療・看護に対する一般市民の認知および看護師への期待	第25回日本がん看護学会学術集会	田中登美, 梶村直子, 林田裕美, 田中京子
齋野 貴史	201103	地域住民への感染症予防対策の普及—感染症予防のための手洗い講習会を開催して—	第21回日本医学看護学教育学会学術集会	齋野貴史, 佐藤淑子, 堀井理司
古谷 緑	201102	タルセバR内服治療を受ける患者の実践しているスキンケア	第25回日本がん看護学会学術集会	榊原康恵, 古谷緑
中山 由美	201007	救命救急センターに勤める新人看護師が必要としている指導者・管理者からの教育的な関わり	日本看護学教育学会第20回学術集会	中山由美, 細田泰子, 星和美

4) 競争的資金

氏名	申請先	研究種目	研究課題名	獲得金額 (千円)	代表・分担 区分
榎木野 裕美	朝日新聞厚生文化事業団	子どもの暴力防止プロジェクト	支援者のための虐待を未然に防ぐ親支援プログラムの紹介冊子作成と冊子を使った研修会の開催	170	代表
和泉 京子	三井住友海上福祉財団	高齢者福祉研究助成	社会経済格差による健康格差をふまえた国民健康保険加入者の壮年期から高齢期までの継続的な支援方略の開発	1000	代表
大川 聡子	立命館大学	博士後期課程研究奨励奨学金(B)	生殖のライフサイクルー若年出産した女性に着目してー	100	代表
森木 ゆう子	日本クリティカルケア看護学会	日本クリティカルケア看護学会奨学金	危機的状況における患者家族と看護師の認識を行動および相互作用	270	代表

5) 共同研究・受託研究

氏名	種別	団体名	事業名称	受入金額 (千円)	代表・分 担
垣本 和宏	受託研究	厚生労働省国際医療協力研究委託費	社会的文化的背景を考慮したHIV等感染症対策に関する研究	4000	分担
上野 昌江	受託研究	河内長野市	河内長野市第3次保健計画策定委託	1400	代表
杉本 吉恵	共同研究	株式会社 アイン	ナノミストバスの基礎研究	300	代表
井端 美奈子	共同研究	株式会社 ワンズ	アロマオイルを用いたハンドマッサージ効果の検証	300	分担
田中 結華	共同研究	株式会社 アイン	ナノミストバスの基礎研究	300	分担
中山 由美	共同研究	株式会社 アイン	ナノミストバスの基礎研究	300	分担
前川 泰子	共同研究	株式会社 アイン	ナノミストバスの基礎研究	300	分担
森木 ゆう子	共同研究	株式会社 アイン	ナノミストバスの基礎研究	300	分担
山居 輝美	共同研究	株式会社 アイン	ナノミストバスの基礎研究	300	分担

6) 講演会・シンポジウム・研修会等の講演

氏名	講演会・シンポジウム・研修会等の講演	場所	題名	日時
町浦 美智子	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護研究方法の質的な看護研究について	2010年4月28日, 5月18日, 5月25日
楢木野 裕美	実習指導者講習会	大阪府看護協会	小児看護学実習	2010年6月10日, 2011年2月14日
	2010年度研修子どもと家族3 病気を持つ子供の看護	大阪府看護協会	看護における子どもの権利と倫理	2010年10月5日
長畑 多代	認知症医療疾患センター研修会	関西医科大学滝井病院	認知症の基本—その人らしい生活を支えるために—	2011年1月25日
高見沢 恵美子	大阪府立病院機構マネージメントスキルアップ研修	大阪府立病院機構	看護と倫理	2010年10月1日
田中 京子	認定看護師教育課程	大阪府看護協会	がん患者の理解	2010年5月14日
	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護論	2010年5月18日
杉本 吉恵	第3回岡山看護技術研究会	岡山県立大学岡山看護技術研究会	体位変換の方法	2010年9月11日
星 和美	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護論(ニード論)	2010年5月26日
	府立病院機構新人看護職員実地指導者研修会	大阪府立急性期総合医療センター	看護基礎教育における現状	2010年6月4日
	奈良県立医科大学付属病院看護部研修会	奈良県立医科大学付属病院	看護研究の理論	2010年12月11日
	県立広島大学保健福祉学部看護学科FD講演会	県立広島大学保健福祉学部	看護理論教育のあり方	2010年12月20日
	府立病院機構新人看護職員教育担当者研修会	大阪府立成人病センター	基礎看護技術到達度と新人看護師のストレスの要因	2011年2月18日
井端 美奈子		大阪府看護協会府北支部	HIVエイズの現状と予防教育	2010年5月24日
	実習指導者講習会	大阪府看護協会	母性看護学実習	2010年6月9日, 2011年2月14日
		大阪医療センター	セクシュアリティ概論 性の多様性	2010年9月13日
	エイズ予防教育リーダー養成研修	大阪府看護協会 桃谷センター	大阪のHIV感染の現状・思春期のセクシュアリティ	2010年10月28日
		大阪府立母子保健総合医療センター	大阪のHIV感染の現状と性の多様性の理解	2011年2月9日
和泉 京子	看護導入研修	国際厚生事業団	フィリピン人看護師候補者看護導入研修	2010年 9月1日
	精神科実習指導者講習会	精神看護協会	地域看護・在宅看護	2010年 11月1日
	訪問事業の充実に向けた研修会	松原市健康部地域保健課	訪問事業の充実に向けた研修	2011年 2月1日
牧野 裕子	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育課程 在宅看護学	2010年8月18日
	奈良県 平成22年度実習指導者講習会	奈良県看護協会	総合分野(在宅看護)	2010年9月9日
	第10回セコム訪問看護セミナー	梅田スカイビルタワーウエスト	訪問看護のやりがい・楽しさ・魅力, 訪問看護に必要な知識・技術	2010年9月25日
	福祉用具専門相談員指定講習会	大阪府社会福祉会館	高齢者の事故	2011年2月5日
松田 千登勢	看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育課程 老年看護学	2010年10月23日, 10月24日
	実習指導者講習会(特定分野)	近畿厚生局	老年看護実習指導の実際 I	2010年10月18日
	研修:老年看護	大阪府看護協会	老年看護の役割, 課題	2010年11月11日
細田 泰子	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育評価	2010年7月2日, 9日, 16日, 8月5日, 19日, 26日, 31日
	兵庫県看護教員養成講習会	兵庫県看護協会	看護教育評価 I	2010年9月8日, 9日
	新人看護職員研修責任者研修	大阪府看護協会	研修の評価方法とフィードバック	2010年11月18日
	新人看護師研修実施指導者研修	大阪府立成人病センター	新人看護師への教育方法	2011年1月12日
	大阪府立病院機構府立5センター新人看護職員教育担当者研修	大阪府立成人病センター	教育目標・教育方法・教育評価について	2011年2月18日
	臨地実習指導者研修	大阪府看護協会	臨地実習指導者の原理と実際	2010年5月10日, 9月6日, 12月20日

氏名	講演会・シンポジウム・研究会等の講演	場所	題名	日時
大川 聡子	訪問事業の充実に向けた研修会	松原市健康部	訪問事業の充実に向けた研修	2011年2月7日
田中 登美	認定看護師教育課程	大阪府看護協会	看護教育	2010年7月1日、5日、15日
	広島県看護協会がん看護研修	広島県看護協会	がん化学療法看護	2011年2月21日
	九州がんプロフェッショナル養成協議会講演	九州大学	化学療法中の患者に対するセルフケア教育	2011年2月28日
小笠 幸子	大阪府看護協会認定看護管理者制度教育課程ファーストレベル	大阪府看護協会	講師	2010年
	奈良県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル	奈良県看護協会	講師	2010年
	平成22年度リーダーシップマネジメントII研修	大阪府立母子保健総合医療センター	リーダーシップマネジメントに必要な基礎知識	2010年
古山 美穂	羽曳野市立子育て支援センター非常勤講師	羽曳野市立子育て支援センターむかしの	もっと楽しく！ずっと楽しく！我が家のいいところ発見しましょ	2010年6月1日
	日本セカンドライフ協会JASSクラブ講師	JASSクラブ大阪事務所	Hだけじゃない心が生きる性	2010年8月9日
	エイズ予防教育リーダー養成研修	大阪府看護協会 桃谷センター	DVDを使用した出前講義	2010年10月30日
山内 加絵	福祉用具専門相談指定講習会	大阪府社会福祉会館	医学の基礎知識②高齢期に見られる疾病と障害	2011年2月5日

7) 公開講座

氏名	公開講座名	題名
垣本 和宏	関西国際保健勉強会「ぼちぼち」	HIV母子感染予防の状況とカンボジア等でのプログラム支援の経験
青山 ヒフミ	2010年 大阪府立大学講座	医療安全と看護
岡本 双美子	はびきの市民大学 快適な人生(QOL)をめざして	介護サービスの上手な活用のしかた
松田 千登勢	はびきの市民大学 快適な人生(QOL)をめざして	医療サービスの上手な活用のしかた
齋野 貴史	平成22年度羽曳野キャンパス公開講座	生活に役立つ感染対策 - インフルエンザ, 食中毒など -

8) 出張講義・出前講義

氏名	出張・出前先	講義名	日時
町浦 美智子	大阪府立箕面東高等学校	いのちを考える	2010年11月10日, 17日
	羽曳野市立中学校	羽曳野市の中学校3年生を対象に、性教育の一環としていのちを大切にする授業を担当した	2010年11月18日, 12月6日, 12月7日, 12月10日
長畑 多代	高齢者総合ケアセンター ハミングベル中道	認知症を地域で支えるには	2010年9月15日
鎌田 佳奈美	大阪狭山高等学校	子ども虐待防止	2010年11月11日
井端 美奈子	大阪府立今宮高等学校	デートバイオレンスの予防とおしゃれ障害	2010年6月3日
	大阪府立農芸高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2010年6月10日
	大阪商業大学付属高等学校	デートバイオレンスの予防とおしゃれ障害	2010年12月6日
	大阪府立成美高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2011年1月20日, 21日
椿 知恵	大阪府立農芸高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2010年6月10日
	大阪府立園芸高等学校	Sexualityちゃんと知ろう	2010年6月14日
	生野朝鮮初級学校	生命誕生の仕組みを知り、生命の大切さを知ろう	2010年7月3日
	北大阪朝鮮初級学校	生命誕生の仕組みを知り、生命の大切さを知ろう	2010年10月19日
	羽曳野市立誉田中学校	性についてちゃんと知ろう	2010年11月1日
	羽曳野市立羽曳野中学校	性についてちゃんと知ろう	2010年11月18日
	羽曳野市立峰塚中学校	性についてちゃんと知ろう	2010年12月6日
	羽曳野市立高鷲中学校	性についてちゃんと知ろう	2010年12月7日
	羽曳野市立河原城中学校	性についてちゃんと知ろう	2010年12月8日
	羽曳野市立高鷲南中学校	性についてちゃんと知ろう	2010年12月10日
山田 加奈子	大阪府立農芸高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2010年6月10日
古山 美穂	大阪府立農芸高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2010年6月10日
	大阪府立大和川高等学校	これからの自分探し	2010年6月30日
	和歌山開智高等学校	セクシュアリティと向き合う看護—性のイメージを揺らして—	2010年7月17日
	エイズ予防教育リーダー養成研修	DVDを使用した出前講義	2010年10月30日
	大阪府立成美高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2011年1月20日, 21日

9) 公的な委員会など

氏名	委 嘱 先 ・ 参 画 委 員 会 名	役 職 名	職 務 内 容
榎木野 裕美	調査研究倫理審査会	委員長	大阪府看護協会が関与する調査研究に関する倫理審査を行う
町浦 美智子	保健師助産師看護師国家試験委員会	委員	既存の助産師国家試験問題および公募にて提出された問題の見直し等を行い、問題の精選化を図る
	専門看護師教育課程認定委員会	委員	母性看護専門分科会委員
上野 昌江	藤原九十郎顕彰委員会	委員	大阪公衆衛生協会における「藤原九十郎顕彰委員会」の委員を務める
	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会	委員	地域看護専門分科会の委員を務める
	大阪府立羽曳野支援学校協議会	委員	学校協議会の委員を務める
	健康日本21八尾第2期計画策定委員会	副委員長	「八尾市健康日本21 策定委員会」にて副委員長を務める
	厚生労働省社会保障審議会	専門委員	厚生労働省雇用均等・児童家庭局における「社会保障審議会」にて専門委員を務める
	健康泉大津21計画推進委員会	委員長	泉大津市における「健康泉大津21計画推進委員会」にて委員長を務める
	羽曳野市健康づくり推進協議会	委員	羽曳野市における「健康推進協議会」にて委員を務める
長畑 多代	大阪府堺市介護認定審査会	委員	介護認定2次審査
	大阪府藤井寺市介護認定審査会	委員	介護認定2次審査
	大阪府介護保険審査委員会	委員	介護保険給付に関する処分に対する不服申立の審理・採決
	藤井寺市地域密着型サービス運営委員会	副委員長	地域密着型サービス指定候補事業者の選定
	藤井寺市地域包括支援センター運営協議会	副委員長	地域包括支援センターの運営に関する指導
	藤井寺市保健福祉計画推進協議会いきいき長寿部会	副委員長	藤井寺市いきいき長寿プランの策定
高見沢 恵美子	文部科学省大学設置・学校法人審議会設置計画等履行状況調査委員会	委員	保健衛生学分野の大学院・大学設置後の履行状況を調査
	日本看護協会専門看護師認定実行委員会	委員	日本看護協会専門看護師の認定審査を担当
	日本看護協会専門看護師認定委員会	委員	日本看護協会専門看護師の認定について審議
	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会クリティカルケア看護分科会	副委員長	クリティカルケア看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議
	日本学術振興会医歯薬学専門調査班	委員	看護学を含む医歯薬学系の審査員候補者の選考・審査結果の検証・学術振興会の事業に対する助言
	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程教員会	委員	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程の教育内容を審議
	医学研究倫理委員会委員	委員	呼吸器アレルギーセンター医学研究倫理委員会で研究倫理を審議
田中 京子	がん看護専門分科会	委員	がん看護における専門看護師教育課程の認定を行う
	第25回学術集会	委員	企画委員 第25回学術集会の企画・運営
	専門看護師認定実行委員会	委員	専門看護師認定審査の実施(書類試験、口頭試問、筆記試験)、専門看護師認定更新審査の実施(書類審査)
	徳島大学外部評価委員	委員	がんプロフェッショナル養成プランの活動について、助言、提案及び評価を提示する
旗持 知恵子	慢性心不全看護認定看護師教育課程教育委員会	委員	認定看護師教育課程慢性心不全看護コースの運営に関する協議
堀井 理司	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 感染看護専門分科会	委員長	感染看護の教育課程の認定を行う
青山 ヒフミ	日本看護教育学会	会長	第20回学術集会
階堂 武郎	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 実行委員
杉本 吉恵	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 企画委員
星 和美	日本看護教育学会	委員長	第20回学術集会 企画委員
	保健師助産師看護師国家試験委員会	委員	既存の助産師国家試験問題および公募にて提出された問題の見直し等を行い、問題の精選化を図る
	日本看護倫理学会	理事	学術活動推進部会委員

氏名	委嘱先・参画委員会名	役職名	職務内容
大川 聡子	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
鎌田 佳奈美	日本看護倫理学会	委員	学術活動推進委員
和泉 京子	摂津市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	茨木市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	堺市地域密着型サービス等事業者審査会	委員	地域密着型サービス事業者の検討
	高石市保健医療福祉審議会	委員	保健福祉医療計画の策定
	高石市地域包括支援センター運営協議会	委員	地域包括支援センター運営の検討
	高石市地域密着型サービス運営委員会	委員	地域密着型サービス検討
	藤井寺市健康づくり推進協議会	委員	健康づくり推進に関する協議・評価
	羽曳野市地域密着型サービス事業者選定委員会	委員長	地域密着型サービス事業者の選定
	堺市健康福祉局福祉施設等施設整備審査会	委員	福祉施設等の施設整備の審査
	羽曳野市介護保険等推進協議会	委員	羽曳野市の介護保険等の推進
	羽曳野市地域包括ケア推進委員会	委員長	羽曳野市の地域包括ケアの推進
	牧野 裕子	藤井寺市介護認定審査会	委員
香芝市介護予防認定高齢者施策事業評価		委員	介護予防事業の事業内容の評価
松田 千登勢	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
佐藤 淑子	大阪府看護協会学会	副委員長	
	日本感染看護学会	委員	第10回学術集会 企画委員
田中 結華	日本看護学教育学会	委員	第20回学術集会 企画委員
	日本看護学教育学会	委員	第20回学術集会 運営委員
勝山 貴美子	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 企画委員
細田 泰子	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 企画委員
田中 登美	認定看護師認定実行委員会	副委員長	認定看護師認定審査の実施, 認定看護師認定更新審査の実施
小笠 幸子	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 企画委員
根来 佐由美	大阪府看護協会 保健師職能委員会	委員	保健師職能委員会活動
	大阪府看護協会 府南支部会	委員	支部活動
来栖 清美	社団法人日本精神科看護技術協会	委員	論文評価, 研究発表評価委員, 社団法人日本精神科看護技術協会大阪府支部 平成22年度看護研究発表会(大阪), 9月
森木 ゆう子	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 運営委員
前川 泰子	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 運営委員
山居 輝美	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 運営委員
中山 由美	日本看護教育学会	委員	第20回学術集会 運営委員

10) 国際交流活動

氏名	相手国	関係機関名	活動の概要
垣本 和宏	タイ王国	マヒドン大学	大学訪問・交流事業打ち合わせ
	カンボジア王国	国立母子保健センター	研究・交流事業打ち合わせ
	カンボジア王国	国立保健科学大学	学生交流

11) その他の社会貢献

氏名	社会活動先	職務内容
垣本 和宏	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	治験審査委員会 外部委員
榑木野 裕美	滋賀県立小児保健医療センター	平成22年度 看護研究指導
町浦 美智子	大阪母性衛生学会	大阪母性衛生学会の運営に関わる会議・事業に参画
田中 京子	チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ	特定看護師(仮称)養成に関する教育についての意見提示
	日本がん看護学会	がん看護に関する研究、教育及び実践の発展と向上に努める目的で委員会活動を行う
井端 美奈子	大阪府立成美高等学校	学校協議会 委員
中嶋 有加里	大阪母性衛生学会	大阪母性衛生学会の運営に関わる会議・事業に幹事として参画
和泉 京子	堺市堺市健康部健康増進課	堺市成年女性若年層への乳がん自己検診の普及活動
松田 千登勢	おおさか介護サービス相談センター	介護サービスの相談に対する専門相談
細田 泰子	大阪南医療センター	ケーススタディ指導
来栖 清美	泉大津市立病院	研究指導, 平成22年度看護研究教育, 4月~3月(通年), 講義および指導
田中 結華	渡嘉毛織株式会社	失禁パンツの開発に関する技術相談
中山 由美	大阪府看護協会南支部会研究発表会	講評講師
森木 ゆう子	池田病院	研究指導
	大阪南医療センター	ケーススタディ指導

編集後記

大阪府立大学看護学部の年報第 6 巻を、看護学部各委員会、羽曳野キャンパス事務所の皆様等のご協力により、作成することができましたことを厚くお礼申し上げます。

本報の掲載内容は、平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月までの 1 年間の教育・研究等の内容に関するものです。

編集作業を通して、より一層、本大学看護学部の充実のために教職員、学生とともに改善に向け一歩ずつ積み上げる努力が必要であることを痛感いたしました。さらに大阪の社会風土に根ざす開かれた公立大学としての役割を担う、社会に貢献する意義ある教育・学術研究の府としての実績を評価される様今後も益々活動していきたいと考えております。

部局評価・企画実施委員会

委員長	中山 美由紀	学部長	高見沢 恵美子
委員	高辻 功一	委員	青山 ヒフミ
委員	池田 由紀	委員	郷良 淳子
委員	細田 泰子	委員	北村 有香
委員	長谷川 智子		